

今までカテキズムから学んできましたが、今日からは改めて「聖書」について学ぼうと思っています。教会に来れば、学校での教科書のように、いつでも聖書が用いられます。実は、今まで学んできたカテキズムも、聖書が何を語っているのかということ、まとめたものでした。

「神さまとはどういうお方か？」 使徒信条

「私たちは神さまの子どもとしてどのように生活すれば良いのですか？」 十戒

「私たちはどのようにして祈れば良いのか？」 主の祈り

こうしたものはすべて、聖書において教えられてきたことでした。

そして、聖書とはどういうものですか？ ということが、聖書の中で記されていますので、聖書の御言葉を確認したいと思います。

テモテへの手紙二 3章16~17節です。

16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。17 こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。

新約聖書はイエスさまのお弟子さんが記しましたが、神さまの霊が働いているため、神さまの言葉として記されています。そして、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。まさに、先ほども説明したように、このようなことを学ぶために、カテキズムを学んできました。

だからこそ、私たちが神さまによって救われ、神さまの子どもとして生きようとする時、毎週、教会に来て、礼拝に出ること、メッセージを聞くこと、お祈りすることが大切です。それと同じように、神さまの御言葉であり聖書を読み、学んでいくことが大切です。

聖書には、旧約聖書39巻、新約聖書27巻、合計66巻の書簡があります。来週からは、その中から大切な所を読みながら、一緒に学んで行くこととします。

お祈りします。

神さま、神さまが私たちを救い、神さまの子どもとして、天国に導いてくださることに感謝します。そして、私たちが神さまの知り、神さまを信じるために、神の御言葉として聖書をお与えくださり、ありがとうございます。

聖書を学ぶことにおいて、神さまが私たちを愛してくださっていることを知り、神さまの子どもとして歩いていくことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

カテキズムにおける祈りの学びを終えて、聖書について学び始めました。神さまによって神さまの子どもとされた私たちが、神さまがお与えくださった聖書を学ぶことは、大切なことです。

そして、みんなも学校でいろんな学びを行います。一番最初に書かれていることは、非常に大切です。繰り返し学ぶことが求められています。

この分厚い聖書の最初に記されている言葉を知っているでしょうか。  
プロジェクトに記しました。

### 1 初めに、神は天地を創造された。

最初は、何もありませんでした。人間もいません。ただ、神さまがおられます。この時、神さまは地球や宇宙をどのようにつくろうかと、すべてを計画されていました。設計図と書いて良いかと思えます。学校に行っているお友だちは、夏休みの宿題があるかと思えますが、いつ、どのように行っていくのか、計画を立てる人もいるかと思えますが、神さまは地球と宇宙を作るために、ちゃんと計画を立てておられました。

神さまは、御計画されたものを、どのようにおこなって行こうとされたかという、言葉を語られることにおいてです。

### 3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。4 神は光を見て、良しとされた。

私たちが宿題を行うとき、ペンをもち、書かなければなりません。しかし、神さまが地球と宇宙を作ろうとされるとき、ただ言葉を語られることにおいて、作られていきます。

最初は、何もなかったところに、光をつくられました。「神は光を見て、良しとされた」。素晴らしいものとして作られたということです。私たちだと、失敗したり、間違ったりします。しかし神さまは完璧に作られます。

### 4 神は光と闇を分け、5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。

そして、神さまは、「光」、「闇」と名前を付けられます。名前を付けることも、神さまは私たちにお与えくださいました。

### 夕べがあり、朝があった。第一の日である。

神さまは、6日間で、すべてを作られます。このことは来週学ぶこととしますが、神さまがすべてを作られたのであり、神さまがいなければ、私たちも生まれてくることがなかったことをお覚えいただければと思います。

お祈りします。

神さま、神さまがすべてを作られたこと、素晴らしいこととして作られたことに感謝します。神さまがいるからこそ、私たちも生まれてくることができました。神さま、ありがとうございます。イエスさまのお名前によりお祈りします。アーメン

神さまの子どもとされた私たちにとって、聖書を学ぶことは、大切なことです。そして何よりも最初に書かれていることは、大切なことであり、繰り返し学ぶことを行います。先週、神さまは、何もなかった中、言葉だけで、世界を作り始められたことをお語りしました。「光あれ」と語られることにより、光ができました。そしてそれは非常に素晴らしいものであり、神さまは光を見て、良しとされました。そして神さまは、光と闇を分けられ、昼と夜をつくられました。これが第一の日です。

このことをもって神さまは地球を作られていきますが、大切なことは、6日間で、すべてをつくられたということです。

2日目 大空、水

5日目 鳥

3日目 地、海、果樹

6日目 動物、人間

4日目 季節、日、年（太陽と月・星）

6 神は言われた。「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」<sup>7</sup> **そのようになった。**

<sup>24</sup> 神は言われた。「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」**そのようになった。**<sup>25</sup> 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。**神はこれを見て、良しとされた。**

6日目の最後に人間が作られたことについては、来週、もう一度学ぶこととしますが、大切なことは、6日間に神さまが言葉を発せられると、いつも「そのようになった」と語られていること、そして、「神はこれを見て、良しとされた」と語られていることです。そして私たち人間も、すばらしい世界をお作りになられた神さまによって生命が与えられ、今日も生きることができています。

だからこそ、私たちはこのように素晴らしいものとしてすべてを作られた神さまがいるからこそ、喜びをもって生きることができます。神さまが、今も、世界を支配していただき、私たちと共にいて、私たちの祈りを聞き届けてくださることに感謝したいと思います。

お祈りします。

神さまがすべてを言葉をもって作られ、すばらしいものとしておつくりくださり、ありがとうございます。だからこそ、私たちも、神さまがつけられた世界を喜び、感謝して、生きることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムの学びを終えてから、聖書について学び始めています。聖書の最初から最後まで、全部読んだことのある人はいますか？ 先生方ではどうでしょうか？

1回読むだけでも大変だな～とってしまいます。しかし、イエスさまの時代の人たちはどうだったのでしょうか？ 一人ひとりが、聖書を持つことはできませんでした。大きな巻物でしたので、読んでもらわなければいけませんでした。

しかし、昔のイスラエルの人たちは、聴いた言葉を暗記したのですね。先生にはできませんが、旧約聖書を全部、覚えたのですね。毎日、毎日、聖書の言葉を聴いて、そして、すべてを覚えたのです。覚えることができる人は、挑戦して欲しいなと思います、……。

全部覚えることができなくても、聖書にはどうということが語られているのか、ということ覚えて欲しいなと思います。

神さまが天地万物を創造されたこと。

神さまによって人が創造されたこと。

人が罪を犯したこと。

アブラハムさんに始まり、イスラエルの人たちが救われたこと。

エジプトに下り奴隷とされていたイスラエルの人たちが、神さまによって救われたこと。

神さまによって、モーセさんが十戒をいただいたこと。

イスラエルが約束の地に帰ってきたこと。

イスラエルにサウロ、そしてダビデ王が立てられたこと。

神さまの恵みにもあながらも、イスラエルが罪を繰り返し、

アッシリアとバビロンに滅ぼされたこと。

バビロンに連れて行かれたイスラエルの人たちが、

エルサレムに帰ってくる事ができたこと

イエスさまがお生まれになり、宣教を始められたこと。

イエスさまが、私たちを救うために十字架に架かれ、死と復活を遂げられたこと。

今、私たちが生きていること。

イエスさまが再び来られ、私たちの救いが完成すること。

ざっと、こういうことです。中学生くらいになると、これくらい覚えて欲しいなと思いますが、だんだんと分かるようになっていただければと思います。

しかし、ここからが今日のメッセージです。聖書が難しい、覚えられないと言う人は、このことだけを覚えて欲しいと思います。

聖書は金太郎アメです。金太郎飴って、知っていますか？  
長い棒のような飴ですが、どこをきっても同じかたちが出て来ます。  
実は、聖書も、金太郎飴のように、どこを読んでも、同じことが語られています。

聖書には、何が語られているのでしょうか？

2つのことが語られています。

一つ目：「人間は罪人ですよ」

創世記の最初、人間が作られました。このときは、神にかたどり、神に似せて作られました。このときはすばらし人であり、神さまを礼拝し、神さまが作られたすべてのものを、正しく管理することができました。

しかし、最初に人が、蛇の誘惑に遭って、罪を犯したのですが、そのとき以来、出てくる人出てくる人、神さまの御前で罪を犯します。実は先生も罪人です。みんなも罪人です。

→ 聖書に書かれていること、それは「あなたも罪人です」ということです。

第二のこと。何かな？

「掟を守りなさい。そうすれば救われる」ということでしょうか？

十戒が与えられ、「～してはならない」と繰り返し語られています。「まもらなければならぬ」と思いますが、実は、「あなたはおきてを守ることができない。しかし、神さまを信じれば救われます。赦されます」ということが語られています。

神さまの恵みです。

「信じなさい。そうすれば救われます」ということです。

ですから、これから聖書を読むとき、いつも、このことを忘れなければ、間違っ覚えてることはないかと思えます。

① 私たちも罪人です。

② 神さまは、あなたを救い、罪を赦し、神さまの子どもとしてくださっています。

お祈りします。

神さまによって教会に集められ、神さまにより救いに入れられたクリスチャンは、神さまがお与えくださった聖書の御言葉に聴くことが求められています。そして、私たちは、聖書の最初、創世記の学びを始めました。神さまが、神さまの御計画に従って、6日間で、そしてただ言葉によって世界を作られたことを学んできました。

そしてその時にも語ってきましたが、神さまは、ご自身が作られた一つひとつのものを確認して、

神はこれを見て、良しとされた

と、繰り返し語られてきました。

そして、6日間ですべてのものをつくられ、最後に人間を創造されます。人間の創造については、大切なことですから、改めて来週から学びますが、すべてのもとをつくられたとき、

神はお造りになったすべてのものご覧になった。見よ、それは極めて良かった。

と、語られます。「極めて」とは、「ものすごく」、「めっちゃ」といった言葉ですね。神さまが世界をすばらしいものとして作られたのですが、実は、この後、旧約聖書の歴史の中でも、イエスさまが来られ、そして新約の時代、今のときも、そしてイエスさまが再び来られるときまで、神さまは、つくられたすべてのもを支配・統治し治めておられます。このことを今日は、覚えていただきたいと思います。

今、私たちは神さまを目で見ることができません。直接、神さまの言葉を耳にすることはできません。だから「神はいない」と多くの人たちが語ります。しかし、神さまは、聖書をとおして、そして聖霊の働きによって、今も、私たちと一緒にいてくださいます。だからこそ、私たちは、神さまを礼拝し、神さまに祈りをささげることができるのです。

今日のメッセージの題を「神の栄光の舞台」としました。「舞台」とは、コンサートホールのようなところですよ。神さまは世界を作られ、コンサートを行うように、神さまの舞台に上るすべての人をご存じであり、見守っていてくださっています。そして必要ときに必要な手助けをお与えくださいます。だからこそ、私たちは、毎日、神さまにお祈りして、神さまの恵みと見守りにあることに感謝しつつ、必要なものをお願いすることができるのです。

お祈りします。

神さま、神さまがすべてのものを、極めて良くお造りになり、今も、私たち一人ひとりを見守っていてくださいますことに感謝します。だからこそ、私たちも、毎日、神さまに感謝して、お祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

神さまが、6日間に、天地万物をすばらしいものとしてお作りになられたことを学んできました。すべてのものが、神さまから生み出されたのです。そして先週はあえて語りませんでした。6日目の最後に、神さまは人を創造されました。アダムさんですね。

このとき神さまはこのように語られます。

1:26 「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

神さまはお一人なのに、なぜ「我々」と語られたのか不思議に思われる方もいるかと思います。神さまは一人です。しかし、神さまは、父なる神さま、子なる神さまであるイエス・キリスト、聖霊なる神さま、つまり三位一体の神さまです。神さまは、父・子・聖霊の間で、豊かな交わりを持っておられます。ですから、一人ですが、「我々」と語ることができます。

人は、神にかたどり、神に似せて作られました。これはどういうことかと言えば、神さまの交わりに生きるということを語っています。つまり、私たちが神さまと交わるとは、神さまを礼拝することですね。私たちが神さまを礼拝するとき、人間としての一番の喜びをもって生きることとなるのです。

神さまとの交わりがあるからこそ、家族や友だちとの交わりが楽しいですね。

そして私たちが神さまを礼拝し、神さまとの交わりにあるとき、私たちはいつまでも生きることができ、それが天国です。

そしてここではもう一つのことが語られています。人が魚・鳥・家畜・獣・這うものすべてを支配すること、つまり正しく管理することが求められています。これは、自由にして良いということではありません。神さまがおつくりになった自然を守ること、動物に対しても優しく接することなどにもなりますね。

人は、罪を犯し、神さまから離れた結果、人は死ぬこととなり、本当の喜びを忘れてしまいました。しかし、神さまを信じ、神さまを礼拝することによって、本当の喜びを思い出し、神さまとの交わりに生きることが出来ます。このとき、神さまは、私たちを、天国へと導いてくださり、永遠の生命をお与えくださいます。

神さまが、すべてのものをお造りになり、私たち人間も神さまによって創造されたのだということをお覚えいただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまが私たち人間を、神にかたどり、神に似せておつくりくださったからこそ、私たちは今生きることが出来ます。神さまを礼拝することにより、本当の喜びをお教えくださり、ありがとうございます。

どうか、みんなが神さまを信じて、神さまを礼拝して、神さまとの交わりに生きることができるようになってください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、6日間の間に、言葉によってすべてのものをおつくりになりました。植物も動物も、そして最後に人間をお造りくださいました。

人間がどのようにつくられたのかは、先週学びました。神のたかち、神に似せて作られました。それは、父・子・聖霊の三位一体の神さまとの交わり、つまり神さまを礼拝することが、一番の喜びであること、そして神さまが造られた世界を管理することであることを学びました。

神さまは6日間で、すべてのものをつくられて、それらは極めて良いものでした。しかし、一つだけ足りないものがありました。それは、人が一人であったということです。神さまは、人が動物や植物、その他のものにどのような名前を付けるか、見ておられました。しかし人は、動物の中に自分の助けとなる者を見つけることができませんでした。

このとき神さまは、人が眠りに付いたとき、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれ、そして抜き取ったあばら骨から、女を造られました。男が先に作られたから、男が偉いということはありません。男は女に助けをいただくことにより生きることができ、女も男に助けをいただくから生きることができます。ですから、男の人は女の人、そして女の人は男の人を、互いに大切に思わなければなりません。

そのことを、男の人アダムは、23節において語っています。

23 人は言った。「ついに、これこそ

わたしの骨の骨 わたしの肉の肉。

これをこそ、女（イシャー）と呼ぼう

まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」

日本語では、男・女と呼びますが、ヘブライ語では、イシュ・イシャーです。男の人アダムさんが、女の人エバさんを大切に思っていることを語っています。ですから、「男のくせに」、「女のくせに」、「男の方が偉い」、「女の方が偉い」といったことは言わないのですね。

神さまは、男の人と女の人が協力して、助け合うことにより社会・家族をつくるように求められています。

お祈りします。

神さま、神さまが男の人を助けるために女の人がつくられたことを学びました。だからこそ、男の人は女の人を、女の人を男の人を大切に思い、互いに助け合って生きることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン



聖書の最初の部分、創世記を学んでいます。神さまが6日間で天地のすべてを創造された時、人は、その最後に、神にかたどり、神に似せて作られました。それは神さまと交わり、神さまを讃美し、礼拝することによって、楽しく、喜んで生きるものでした。

それは、永遠に生きておられる神さまから作られたからこそ、人間も、死ぬことは考えられませんでした。

そうしたとき、神さまは、最初の人アダムさんに語ります。2:16-17「園のすべての気から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。たべると必ず死んでしまう」。アダムさん、そしてエバさんは、何の不自由もなく、神さまと共に、楽しく生きることができました。

こうしたとき、蛇がエバさんのところにやってきます。聖書はこのように語ります。

3:1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。

蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

3:2～3 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。

でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、

触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

本当にそうだった？ 神さまは「触れてもいけない」とは語られませんでした。神さまは、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。たべると必ず死んでしまう」と語られたのです。

こうなれば、蛇は続けて語ります。

3:4～5 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

3:6～7 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、

二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

アダムさんとエバさんは、蛇にだまされ、神さまとの約束を破ってしまいました。これが人の最初の罪です。そしてこの最初の罪により、アダムさんも、エバさんも、そして二人から生まれるすべての人、今に生きる私たちも罪人となりました。罪を犯したら死ななければなりません。だからこそ、私たちも永遠に生きることはできなくなりました。

人は、神さまのところに戻ってきて、神さまを信じなければ、生きることはできず、必ず死んでしまいます。だからこそ、私たちも、神さまを信じて、神さまを礼拝することが求められています。

お祈りします。

神さま、アダムさんとエバさんと同じように、私たちも罪を犯してしまいます。それでも神さまを信じる人に、神さまは救いをお与えくださることに感謝します。だからこそ私たちも、神さまを信じ、神さまによる救いに入れてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

先週はお休みをいただきました。先週は和喜先生より、いままでの復習を行っていただきました。神さまによってすべてが創造され、そして最後に人間が創造されましたが、アダムさんとエバさんは、神さまとの約束を破り、罪を犯してしまいました。そこまで学びました。

しかし神さまは、せっかく神にかたどり、神に似せて人をつくったのに、ダメだと怒られることはありませんでした。

どうなったのかということが、今日の所で語られています。最初に神さまは人をだました蛇を呪われるものとなりました。蛇に足がないのは、神さまが蛇を呪われた結果です。

そして続けて神さまは人に語られます。前に記されています。

15 「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に

わたしは敵意を置く。

彼はお前の頭を砕き

お前は彼のかかとを砕く。」

ここで出てくる「お前」とは蛇を代表とするサタン・悪魔のことですね。人とサタンの間に、敵対関係が生まれます。

次のところが大切です。

**「彼はお前の頭を砕き**

**お前は彼のかかとを砕く。」**

「彼」といきなり出てきましたが、「神の子であるイエスさま」のことですね。蛇に代表されるサタンに対して、イエスさまがサタンの頭を砕いて滅ぼされ、一方、蛇であるサタンがイエスさまを叩いても足のかかかとが砕かれる程度の小さな傷にすぎないとかたります。これはイエスさまが十字架に架けられ、死を遂げられたことです。イエスさまは負けたようでしたが、死から三日目の朝に甦られ、そしてサタンに勝利を遂げられました。

一方、イエスさまが再び来られたとき、イエスさまはサタンを完全に滅ぼされ、神さまを信じるクリスチャンに天国での救いをお与えくださいます。ですからここに、神さまによる私たちに対する救いの約束が語られており、「原福音」福音とは、救いの喜びですね。その一番の最初のことがここで語られているのですよ、ということが出来ます。

お祈りしましょう。

神さま、人が罪を犯したにもかかわらず、人を赦してくださり、救いへとお招きくださり、ありがとうございます。私たちも罪を犯してしまいます。それでも神さまが赦してくださり、イエスさまによって救ってくださり、ありがとうございます。

私たちが神さまを信じて、歩み続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまによって作られた最初の人、アダムさんとエバさんは、神さまの恵みによって、好きなものを食べることができましたが、神さまとの約束を破って、善悪の知識の木の実を食べてしまい、人は罪人となります。

しかし神さまは、すぐに蛇を代表とするサタンを呪ってくださり、裁くことを宣言してくださり、さらに神さまを信じる人に、キリストによる救いを約束してくださいました。

罪が入った人間は罪を止めることができません。アダムとエバの子どもに、カインさん、アベルさんが生まれました。アベルさんは土を耕し、アベルさんは羊飼いとなりました。カインさんもアベルさんも、神さまに感謝し収穫したものなどを神さまに献げていました。しかし神さまはアベルさんの献げ物だけを喜ばれ、カインさんのものを褒めることをされませんでした。なぜか聖書には書かれていませんが、アベルさんは羊の中の一番良い物を献げたけれども、カインさんは、収穫したものの中から適当に献げたのかもしれない。神さまはどのようにして神さまを礼拝し、献げ物をするのかを見ておられます。

カインさんは怒ってしまい、そして二人だけになった時に、弟アベルさんを殺してしまいました。これが最初の殺人事件です。

主なる神さまに見つかったとき、カインさんは、「自分の罪が大きくて負いきれない。私が殺されてしまう」と語ります。

このとき神さまは、

15 主はカインに言われた。「いや、それゆえカインを殺す者は、  
だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」

とお語りくださいました。つまり、カインさんは自分の罪を認め、悔い改めたとき、神さまはそれを赦してくださいました。神さまは、一度罪を犯したら、もうダメだ、と怒られるのではなく、罪を赦し、そして守ってくださいます。

先生も、そしてみんなも、人は殺さないでしょうが、悪いことをしたり、嘘をついたりしてしまうかと思います。しかし、自分の罪を認め、「ごめんなさい」と言えば、神さまは赦してくださいます。神さまに感謝して、神さまを信じていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、カインさんのように、私たちも罪を犯してしまいます。しかし、罪を認め、「ごめんなさい」というとき、神さまが罪を赦してくださり、守ってくださることに感謝します。神さまの子どもとして、毎日を生きていくことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまが天地万物を創造され、人間も神の形・神に似せてつくられました。しかし、人間が神さまとの約束を破った結果、人は罪人となり、死ぬこととなりました。それは、アダムさんとエバさんから生まれてくるすべての人たちに受け継がれることとなりました。そして、アダムさんとエバさんの子どもであるカインさんとアベルさんでしたが、お兄さんのカインさんが弟アベルさんを殺す結果となりました。

生まれた時から、罪を行うこととなった人間は、際限なく罪が繰り返されて行きます。このときのことを聖書は語ります。5～6 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

7 主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」

神さまはこのとき、神さまが創造した人間を、「地上からぬぐい去ろう」と語られています。人間を滅ぼすということです。神さまは、全世界に雨を降らせ、洪水にさせ、そして、人間をすべて滅ぼすことを決定され、実行されることにしました。

神さまは人間が罪を繰り返すのが嫌になったのですね。

これがノアの洪水と言われるものです。40日40夜、雨が降り続き、すべての人、地上の生き物が死んでいきました。

しかし、これですべてが終わりかという、そうではありませんでした。前を見ていただきますと、赤で記した部分、

#### 8 **しかし、ノアは主の好意を得た。**

神さまはノアとノアの家族を前もって助けてくださり、箱舟を作るように命令されました。そして地上で生きている動物も、その中に入れるように命令されました。

ノアが山の上で箱舟を作るのを周りの人たちが見て、ノアのことをバカにしました。しかしノアは、神さまの言うとおりに箱舟を作り、そして神さまが語られたとおりに洪水が起こったため、ノアとその家族、そしてその中にいた生き物だけが生き延びたのです。

神さまは、悪いこと、罪を行うことを嫌われます。裁かれます。しかし、神さまを信じて、神さまの語られることを行う人を、神さまは愛してくださり、救ってくださいます。教会に来る人は少ないですが、神さまを信じて、神さまに愛される子どもでいていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまを知らない人たちは、悪いこと、罪を繰り返します。しかし、神さまは、神さまを信じる人たちを愛し、救ってくださいます。私たちも、神さまを信じ、神さまの語られることを行うことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

先週は、教会の記念日のために、いつもの創世記の学びから離れましたが、今日から創世記の学びを再開します。前回、ノアさんの時代に洪水が起こったこととお話ししました。

神さまはノアさんに対して、箱舟を作り、家族と動物たちがそこに入るように求められました。丘の上で、洪水など起こるはずがないと思われていましたが、ノアさんは、三人の息子たち（セム・ハム・ヤフェト）と共に箱舟を一生懸命に作り、そしてそれぞれの奥さんたちと一緒に船に乗りました。全部で8人です。船の大きさは、300アンマ（133m）ほどです。

大雨が降り、洪水が起こり、すべての人たちが死んでいくなか、神さまの救いの約束を信じて、神さまの命令に従ったノアさんと家族8名は助かります。ノアさんたちが箱舟にのって1年が経って、ようやく洪水が引き、箱舟を下りることができるようになります。

洪水において、船に乗らなかつたすべての人たちが滅ぼされました。神さまを信じないこと、神さまの語られる言葉に従わないこと、そして自分勝手に生きるとき、神さまは裁きを行われます。ノアさんの洪水のように、神さまは全世界を滅ぼすことができになる力をもっておられます。そして本当ならば、私たちの持っている罪は、ここでノアさんを除くすべての人たちが滅ぼされたように、神さまの裁きにあうものです。

しかし神さまは、ノアさんとその家族を愛してくださり、助けてくださいました。

そして神さまはお語りになります。

「あなたたちは産めよ、増えよ  
地に群がり、地に増えよ」(9:7)

そして更にお語りになります。

「わたしがあなたたちと契約を立てるならば、二度と洪水によって肉なるものがごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない」(9:11)。

すべてを滅ぼすことができる神さまが、もう同じようなことはしないと約束してくださいました。そして続けて神さまは語られます。

9:13 すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。

これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。

虹をなかなか見ることができませんが、出ていたら綺麗ですね。神さまは、私たちが虹を見たとき、洪水によってすべてが滅ぼされることをしないことが約束されたことを思い出すようにしなさいと、お語りくださっています。

これは神さまを信じて、神さまの約束を信じて生きていることです。そして神さまの愛と約束を知った私たちは、神さまの子どもとして、天国で永遠に生きることができます。

(お祈り)

神さま、ノアさんが神さまに愛されたように、私たちを愛してください。そして、私たちが神さまの子どもとして、神さまを信じ、神さまが命じられていることに聞き従うことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

ノアの時代に、洪水によって、ノアさんとノアさんの家族以外のすべての人たちが滅びました。そして洪水が引いた後、神さまはノアさんたちに約束してくださり、これからはもう二度とすべてを滅ぼすことはしないとお語りくださいました。そのしるしが虹です。

その後、ノアさんの家族から多くの人たちが生まれていきました。みんなが、「神さまの恵みによって生きている」ことを信じる事ができれば良かったのですが、そうはいきませんでした。

彼らは自分たちが神さまに近づこうとして、高い塔の建設を始めます。日本では東京タワーやスカイツリーなどの高い塔がありますが、当時はそのようなものはありませんでした。そのため、すごく目立ったと思います。

このとき彼らは語ります。

- 4 彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。  
そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。

しかしこのことは、神さまからすれば、「自分たちが神になろうとしている」と思いました。そのため神さまは、人々が話している言葉を理解できないように、別々の言葉に分けられました。現在でも、英語・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語等と分かれていますね。教会には英語の先生もおられますが、外国の言葉がわからなければ、国の違う人たちと会話することもできません。このことは、人間が罪をもっていて、神さまから離れていることを物語っています。

私たちが神さまを信じるということは、イエスさまが再びこの世に来られたとき、天国（神の国）に行くことができますよね。このときには、こうした言葉の違いはなくなり、天国に集まった世界中の人たちと楽しく会話をするできるようになります。ペン手コストの時、その場に集まっていた人たちは、言葉の違いがなくなり、会話ことができましたが、天国に行けば、すべての人たちと、話して、交わりをもつことができるようになります。罪がなく、神の恵みに満たされた状態です。

私たちは、神さまを信じることにより、天国に行くことができます。ここでの生活が、本当の喜びとなります。

お祈りしましょう。

神さま、今は、国が違えば、言葉が異なり、自由に話すことができません。しかし、イエスさまを信じて、神さまの子どもとなることにより、天国では世界中の誰とでもお話しすることができるようになります。

だからこそ私たちが神さまを信じて、天国の恵みに入ることができるようにしてください。イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

旧約聖書を学んでいます。神さまが最初に天地万物を創造され、そして私たち人間も、神に似せて、神のかたちに創造されました。神さまの恵みに生きる者として創造されましたが、しかし人は罪を犯しました。罪の結果は死です。最初の罪は、彼らからうまれるすべての人に引き継がれました。兄が弟を殺すこともありました。罪が広がり、神さまはノアの時代に、全世界に洪水を起こすことによってすべてを滅ぼされました。

それにも関わらず、人の罪はなくなりません。人が神に近づこうとして、高い塔（バベルの塔）を立てましたが、神さまはそのことを咎められ、人は、それぞれ話す言葉が異なり、互いに話し合うことができなくなりました。

罪がなくなる限り、人間が救われ、神の子として生きることはできません。しかし、神さまは、ノアさんを選び、救ってくださったように、アブラムさん（後にアブラハムとなります）をお選びくださり、神の子としてくださいました。旧約聖書のすべてが、アブラハムさんの子どもたちであるイスラエルについて語られていきます。ですから、アブラハムさんのことを「信仰の父」とも呼ばれています。

神さまが、最初にアブラハムさんに声をかけられたとき、神さまはこのように語られます。12:1 「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい」。

このとき、アブラハムさんは、どこに行けば良いのか分かりません。実はこのとき、アブラハムさんはウルというところ、ペルシャ、今で言うイラクにいました。そして神さまは、約束の土地カナン、イスラエルに行くことを求められます。

アブラハムさんにとってはどこまで行くか分かりません。不安もあったことでしょう。

しかし、神さまはさらにアブラハムさんに語られます。

- 2 わたしはあなたを大いなる国民にし  
あなたを祝福し、あなたの名を高める  
祝福の源となるように。

神さまがアブラハムさんをお選びくださり、祝福をお与えくださることを約束してくださいました。これは、ノアさんが選ばれ、助けられたように、神の恵みに生きることが約束されるということです。

アブラハムさんは、この神さまの言葉を信じて、旅だっています。このことを、神さまは喜んでくださいます。神さまは、アブラハムさんのように、神さまの言葉を聴いて、信じて、行動する人を、喜んでくださいます。

みんなも、今日、神さまのところ、教会での礼拝に集うことができました。このことを、神さまは喜んでくださいます。神さまを信じて、神さまの子どもとして、神さまの恵みに喜びをもっていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、アブラハムさんが神さまの言葉を信じて、神さまが示される土地に旅立つことができたように、私たちも神さまの御言葉である聖書の言葉を信じ、行動することができるようになってください。 イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

罪が広がった世界、神さまはノアさんと家族だけを残して、洪水によってすべてを滅ぼされました。しかし、ノアさんの子どもたちから広がった世界も、罪が広まっていました。

そうした中、神さまは、すべての人を滅ぼすことをしないために、アブラハムさんを選びくださり、約束の土地に導いてくださいました。アブラハムさんは、まったく知らない土地でしたが、神さまを信じて、旅立ちました。

神さまがアブラハムさんを救い、家族の祝福を約束してくださいましたが、問題がありました。アブラハムさんは年をとっていましたが、アブラハムさんには子どもがいませんでした。そのために、アブラハムさんは、神さまに尋ねます。「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません」(2)と。

このときに神さまは、「あなたから生まれる者が跡を継ぐ」(4)と語られ、さらに、  
5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」

6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

アブラハムさんは、親戚の子どもが、自分の跡継ぎ(子ども)となり、神さまの恵みも受け継ぐと思っていました。しかし神さまの答えは、アブラハムさんに子どもがあたえられるということでした。アブラハムさんは、「それは無理」と思ったに違いありません。

しかし、それでもなお、アブラハムさんは、主なる神さまを信じました。神さまは、すべてを作られました。すべてを滅ぼす力を持っておられます。そのようなお方だからこそ、私たちが「無理だ」と思ったことでも、神さまならば、行うことが可能なのです。アブラハムさんは、このことを信じたのです。

神さまを信じることは、神さまが分かったから信じるものではありません。神さまは、アブラハムさんと一緒にいてくださったように、今も、私たち・みんなと一緒にいてくださいます。そして、何だかわからないけれども、自分にはできないことでも、神さまならば行うことが可能だろうということを信じることです。

このことはお祈りも同じです。自分ではどうにもならないことであっても、神さまならば行ってくださることを信じて、お頼みして、祈るのです。

だからこそ、アブラハムさんが神さまを信じたように、みんなも、神さまを信じていたきたいと思います。

お祈りします。

神さま、アブラハムさんが神さまと出会い、神さまを信じたように、私たちも、今も一緒にいてくださる神さまを信じるができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン



クリスマスを含みましたので、忘れてしまったかと思いますが、主なる神さまはアブラハムさんに声をかけられ、祝福をお与えくださいました。それは、アブラハムから生まれてくる子どもたちに受け継がれていくということでした。

しかし、アブラハムさんはもうすぐ100歳になろうとしていました。妻のサラさんも90歳になろうとしていました。冗談だろうと思ってしまうことです。ですから最初、神さまからこの話しを聞いたとき、サラさんは笑ってしまいました(18:13)。

このとき神さまはアブラハムさんに語られました。18:13-14「なぜサラは笑ったのか。なぜ年をとった自分に子供が生まれるはずがないと思ったのだ。主に不可能なことがあるうか。来年の今ごろ、わたしはここに戻ってくる。そのころ、サラには必ず男の子が生まれている。」

人間にできないことであっても、神さまは可能にされます。そして、サラさんに赤ちゃんが生まれるときとなりました。

このときサラさんはこのように語ります。

21:6 「神はわたしに笑いをお与えになった。

聞く者は皆、わたしと笑い（イサク）を共にしてくれるでしょう。」

90歳の女性から赤ちゃんが生まれました。周りの人たちは驚き、笑ったことでしょう。このことを、サラは語っているのですね。

そして、100歳のアブラハムさん、90歳のサラさんから生まれたのがイサクで、イサクから、ヤコブとエサウが生まれ、ヤコブから12人の兄弟たちが生まれることにより、イスラエル民族を形成していくこととなります。アブラハムに約束された神さまの祝福は、イサクが生まれることにより実現の第一歩を始めることとなります。

私たちでは考えられないことを、神さまは実現してくださいます。神さまの救いの約束を信じること、不可能だと諦めることなく、神さまにお頼みして、信じて生きることが、私たちに求められています。

お祈りします。

神さま、アブラハムさんとサラさんからイサクさんが生まれたように、神さまは、私たちに不可能だと思うようなことでも、行うことができるお方です。だからこそ、私たちが神さまを信じるができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまがアブラハムさんに祝福を約束されたことが、イサクが生まれることによって実現しました。神さまは人間には不可能だと思われることを可能にされるお方であり、100歳のアブラハムさんと90歳のサラさんから、赤ちゃんをお与えくださいました。

しかし、神さまは、アブラハムさんに命令を出します。与えられた祝福の子どもであるイサクさんを、「神さまに献げなさい」ということです。つまり、いけにえに献げて、命が奪われることを受け入れることです。動物ならば、代わりがいますが、約束の子どもであるイサクさんには代わりがありません。

このとき、アブラハムさんは悩んだと思います。しかし、アブラハムさんは、結果がどのようなかは分からないけれども、神さまの言葉、神さまの約束を信じて行動します。

アブラハムさんは、イサクさんと二人になり、なおも山に登っていきます。このとき、イサクさんは語ります。

「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか」。アブラハムさんは答えます。

「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる」。

ここにアブラハムさんの信仰が表れています。結果はどうなるのか、アブラハムにもわかりません。アブラハムがどうして欲しいのか、ではなく、神さまがどのようにされるのかを信じて、委ねたのです。

みんなも、あれをしたい、これをしたい、と思うことが一杯あるかと思います。そのとき、それができるように神さまにお祈りすることも大切です。しかし、自分で思ったこととは違った結果が与えられることもあります。そうしたときに、神さまがお与えくださったことであることを受け入れていただきたいと思います。

結果は、なぜなのか分からないこと、嫌なことかもしれません。神さまは、みんなのことが大好きであり、このときに、一番大切なことをお与えくださいます。しばらく、なぜなのか、分からないこともあるかもしれません。

しかし、神さまは、みんなのことが大好きであり、一番良い結果をお与えくださいます。神さまを信じて、どのような結果でも神さまに感謝して欲しいなと思います。

お祈りします。

神さま、アブラハムさんは、どうすれば良いのか分かりませんでした。しかし、神さまの言葉に従い、神さまが一番良い結果をお与えくださることを信じて行動しました。私たちも、いつも神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。そして神さまが示された結果を受け入れることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

アブラハムさんが、神さまから祝福を受け、それが100歳になってようやくできた子どもイサクさんに渡されました。このバトンが次に誰に引き継がれるのか、ということ今日の聖書から確認します。

イサクさんはリベカさんと結婚しますが、リベカさんからは双子の男の子が生まれました。お兄さんがエサウさんであり、弟がヤコブさんです。二人が生まれたとき、主なる神さまは、リベカさんに不思議なことを語られました。

25:23 「二つの国民があなたの胎内に宿っており  
二つの民があなたの腹の内で分かれ争っている。  
一つの民が他の民より強くなり  
兄が弟に仕えるようになる。」

二人は立派に成長するのですが、二人は争う・戦争すると語ります。そして、兄が弟に仕えるようになる、つまり弟の方がお兄さんより力を持つと語られたのです。

お母さんであるリベカさんは不思議に思っていました。しかしリベカさんは、弟のヤコブさんの方が好きだったのですね。

二人が成長していきます。あるときエサウさんは、狩りに行きます。狩りに行き、おなかをすかして帰ってきました。このときエサウさんは、弟のヤコブさんに「何か食べさせてくれ」とお願いします。

このときヤコブさんは「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください」と語ります。エサウさんはこのとき、こうしたものはどうでもよかったため、「いいよ。すぐに食べさせて欲しい」と頼み、長子の権利をヤコブに譲ったのです。

さらに時間がすすみ、お父さんのイサクさんが年を取ったとき、アブラハムさんから受け継いだ祝福をお兄さんのエサウさんの与えようとして、エサウさんに狩りに行くように命じました。しかしこれを聞いていたお母さんのリベカさんは、狩りの獲物を代わりに準備して、ヤコブに渡し、そしてヤコブが父イサクさんの祝福を奪い取ったのですね。

このとき、イサクさんがヤコブさんに祝福を渡したときに語ったのが、この言葉です。

「29 多くの民がお前に仕え 多くの国民がお前にひれ伏す。

お前は兄弟たちの主人となり 母の子らもお前にひれ伏す」。

このようにして、アブラハムさんが神さまが与えられた祝福は、イサクさん、そして弟であるヤコブさんに受け継がれることとなりました。神さまの恵みは、いつも私たちに与えられています。しかし、兄のエサウさんのように、「どうでもいい」、「いらぬ」と言ったとき、失われてしまいます。

だからこそ、みんなも、今、神さまと一緒にいてくださり、神さまの恵みの中にあることを、受け入れ、信じていただきたいと思います。

お祈りします。神さまがいつも私たちを覚え、恵みの中に入れてくださっていることに感謝します。そしてヤコブさんのように、いつでも神さまが共におられることに感謝して、神さまの恵みを受け入れることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

アブラハムさんの子どもイサクさんには2人の子どもがいましたが、兄のエサウさんではなく、弟のヤコブさんが、神さまからの祝福も、長男として財産も受け継ぐことを、確認しました。

それからしばらく時間が経ち、ヤコブさんは、お兄さんのエサウさんとも仲直りをしました。

そして、ヤコブさんには12人の男の子が生まれました。この兄弟が、12部族を形成するイスラエルと呼ばれるようになります。そして父であるヤコブさんは、一番年下の二人、ヨセフさんとベニヤミンさんのことが可愛くて仕方ありませんでした。特にヤコブさんはヨセフさんだけを特別扱いをして、他の兄弟たちはヨセフのことを憎んでいました。

こうした中、ヨセフさんは夢を見て、兄弟たちに語ります。6-7「聞いてください。わたしはこんな夢を見ました。畑でわたしたちが束を結わえていると、いきなりわたしの束が起き上がり、まっすぐに立ったのです。すると、兄さんたちの束が周りに集まって来て、わたしの束にひれ伏しました。」

もう一度、ヨセフは夢を見ます。10 今度は兄たちだけでなく、父にも話した。父はヨセフを叱って言った。「一体どういうことだ、お前が見たその夢は。わたしもお母さんも兄さんたちも、お前の前に行って、地面にひれ伏すというのか。」

11 兄たちはヨセフをねたんだが、父はこのことを心に留めた。

兄弟たちの怒り、ねたみは、だんだん大きくなり、抑えきれなくなります。そして兄弟たちは、ヨセフを殺してしまおうとたくらみ、相談します。そして、実際に殺しにかかろうとしました。しかし、ルベンお兄さんは「命まで取るのはよそう」と語り、ヨセフを穴に投げ込み、後から助けようと思いました。

一方、他の兄弟たちは、外国人であるイシュマエル人が通りかかったので、弟のヨセフさんを売ってしまいました。

兄弟げんかをする事、殺したり、売ったりすることは許されることではありません。しかし神さまは、イシュマエル人に売られ、エジプトに行くこととなるヨセフさんを、ヤコブを初めとするイスラエルを救うために用いてくださいます。

苦しい中であっても、ヨセフさんと共に神さまと一緒にいてくださり、守ってくださいました。だからこそ、どのような時にも、神さまを信じて、そして神さまに助けをもとめて祈っていただきたいと思えます。

お祈りします。

神さま、ヨセフさんは、兄弟たちに殺されかけ、そして外国人に売られていくこととなりましたが、神さまが守ってください、イスラエルを助ける働きをすることができました。だからこそ私たちも、どのようなときにも、神さまを信じて、神さまに助けを求めることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

ヤコブの兄弟12人の内、下から2番目のヨセフだけが、父ヤコブからかわいがられ、特別扱いを受けていました。そのため、他の兄弟たちは、ねたみ、恨みました。そして、最初はヨセフを殺そうとしましたが、最終的には、外国人であるイシュマエル人に売られ、さらにエジプト人に売られていきました。

エジプトにおいても、奴隷として連れてこられた家の主人の妻に、ヨセフが罪を犯さなかったために嫌われ、そして牢に入ることとなりました。

監獄に入ったヨセフは、監獄の看守長に気に入られ、監獄の中にいましたが、信頼されていました。そうした中、監獄の中に、エジプト王の給仕役と料理役が、エジプト王に過ちを犯して、監獄に入れられました。給仕役も料理役も、夢を見て、どういう意味か分からなかったため、ヨセフに相談したところ、二人の夢のことを説明し、二人はその後、夢のとおりになりました。給仕役は職場に復帰し、料理役は木にかけられて殺されました。

その後2年が経ったとき、エジプト王ファラオも夢を見ました。王の世話をしている人たち、周囲の人たちは、誰も、王の夢のことを説明することができませんでした。このとき、ヨセフに夢の話をして、そのとおり働きに復帰した給仕役は、ヨセフのことを思い出し、王にそのことを伝えました。

そしてヨセフはファラオの前に行きます。ファラオは、ヨセフに二つの夢を見たことを説明します。41:17-24「夢の中で、わたしがナイル川の岸に立っていると、突然、よく肥えて、つややかな七頭の雌牛が川から上がって来て、葦辺で草を食べ始めた。すると、その後から、今度は貧弱で、とても醜い、やせた七頭の雌牛が上がって来た。あれほどひどいのは、エジプトでは見たことがない。そして、そのやせた、醜い雌牛が、初めのよく肥えた七頭の雌牛を食い尽くしてしまった。ところが、確かに腹の中に入れてのに、腹の中に入れてことがまるで分からないほど、最初と同じように醜いままなのだ。わたしは、そこで目が覚めた。それからまた、夢の中でわたしは見たのだが、今度は、とてもよく実の入った七つの穂が一本の茎から出てきた。すると、その後から、やせ細り、実が入っておらず、東風で干からびた七つの穂が生えてきた。そして、実の入っていないその穂が、よく実った七つの穂をのみ込んでしまった。わたしは魔術師たちに話したが、その意味を告げうる者は一人もいなかった。」

ヨセフは、この2つの夢のことが分かりました。7年間、豊作が続き、作物が取れるが、その後の7年はまったく作物が取れなくなるということで、32「夢を二度も重ねて見られたのは、神がこのことを既に決定しておられるからで、神が間もなく実行されようとしておられるからです」と説明しました。

ファラオは、ヨセフの説明に感心して、「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」と語り、ファラオはヨセフを休廷の責任者として、国中で大切な責任を持つ、総理大臣にしました。

ヨセフさんは、いろんな苦勞をしましたが、いつも神さまと一緒にいてくださり、ヨセフさんを守ってくださいました。また、ヨセフさんも、神さまが共に居てくださったからこそ、神さまとの約束を守り、罪を犯すことがありませんでした。

神さまは、ヨセフさんといつも一緒にいてくださったように、いつでもみんなと一緒にいてくださいます。だからこそ、苦しいとき、ぜひ神さまにお祈りして頂きたいと思えます。神さまと一緒にいてくださり、助けてくださいます。

お祈りします。神さま、神さまがヨセフさんといつも一緒に居てくださったからこそ、ヨセフさんは、罪を犯すことなく、また奴隷とされたり、牢屋に入っても、耐えることができました。どうか、私たちも、神さまを信じて、いつでも神さまにお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

## 子どもメッセージ211 「摂理の主の勝利」 創世記50章15～21節 2023年2月5日

ヤコブの12人の兄弟たちの中、ヨセフは奴隷として売られ、そしてエジプトに連れて行かれましたが、このとき、王であるファラオの夢を解き明かすことにより、王に気に入られ、そして総理大臣にまでなりました。そしてヨセフは、エジプトや周辺諸国に襲いかかる7年間の飢饉のために、対策チームのリーダーとなりました。

7年間の飢饉となった時、イスラエルも飢饉となり、食べ物がなくなりました。そのため、ヤコブは子どもたちをエジプトに遣わせ、食料を手に入れることとなりました。最初のときは、エジプトにいるヨセフと一番下のベニヤミン以外の10人がエジプトに行きました。エジプトにいたヨセフは、兄弟たちが来たことに直ぐに気が付きましたが、兄弟たちはヨセフのことに気が付きませんでした。そのため、ヨセフは、兄弟の一人シメオンを牢屋に入れた上で、次に来るときには一番下の兄弟を連れてくるように命じて、兄弟たちを父のところに戻します。

さらに飢饉がひどくなり、イスラエルの民はもう一度、エジプトに行かなければなりません。しかし父ヤコブは、一番下の弟ベニヤミンを手放すことを許しません。しかし、飢饉が収まらないため、ヤコブもなくなく、ベニヤミンを含む兄弟たちをエジプトに送りだしました。

ヨセフは、ベニヤミンを見て、喜びます。そして、牢に捕らえられていたシメオンを含め、11人の兄弟たちを食事の席に呼びます。このとき、ヨセフは、上の兄弟から順番に席順を定めて座ってもらいます。兄弟たちは驚きます。そしてベニヤミンの食事だけ、誰よりも多く並べられます。

その後しばらくして、ヨセフは、自分のことを隠し通すことができず、兄弟のヨセフであることを、兄弟たちに打ち明けるのでした。そして、王であるファラオの許可を受けて、父ヤコブとイスラエルの家族をエジプトに呼び寄せることとなったのです。

この後、ヤコブと兄弟たちにとって喜びに満ちた日々が続きましたが、今日の聖書の箇所では、父ヤコブが息を引き取り、死んでしまったときのことが語られています。ヤコブが生きている時は、兄弟たちも気にしなかったのですが、父が死んでしまったことで、兄弟たちは、ヨセフが、まだ自分たちのことを恨んでいて、仕返しをするのではないかと恐れます。

このとき、ヨセフは兄たちに言った。19「恐れることはありません。わたしが神に代わることができましようか」と。さらに、20-21「わたしが神に代わることができましようか。あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。どうか恐れなくてください。このわたしが、あなたたちとあなたたちの子供を養いましょう。」

ヨセフさんは、神さまと共にいたからこそ、つらい時もありましたが、守られ、そして、お兄さんたちも許すことができました。神さまは、ヨセフの罪、お兄さんたちの罪をも赦してくださったからです。ヨセフは自分が神になろうとは思いませんでした。だからこそ、ヨセフはお兄さんたちを赦し、そしてヨセフは家族全員と一緒に暮らすことを願いました。私たちも、どんなことがあっても、人を赦し、仲直りすることが求められており、神さまは仲直りすることを、喜んでくださいます。

お祈りします。

神さま、ヨセフさんが兄弟たちを赦し、仲直りしたように、私たちも、いじめられたり、嫌なことがあっても、相手を赦し、仲直りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

アブラハムの子、イサクの子ヤコブから12人の息子たちが生まれました。彼らはヨセフがエジプトにおいて総理大臣になっていた関係で、7年間の大飢饉の時に、エジプトに来ていました。

それから300～400年のときが経ちました。ヤコブから生まれたイスラエルは、多くなり、一つの民族となっていました。外国であるエジプトで、イスラエルの人たちが増えたため、エジプトの王ファラオは、イスラエルの人々を奴隷として働かせていました。さらにイスラエルの人たちが増えることを恐れたファラオは、イスラエルに生まれた男の子を、殺すように命じました。

そうしたときに、モーセさんが生まれます。男の子ですから殺さなければなりません、お父さんもお母さんも、モーセが可愛く、殺すことができず、隠していました。しばらくは良かったのですが、3ヶ月たったとき、もう隠しきれないと思い、ナイル川という大きな川にモーセを籠に入れて流しました。エジプト人でも良いので、誰かが見つけて、助けてくれることを願っていました。

そしてモーセのお姉さんは、その籠に乗ったモーセを岸で見守っていました。

そうしたとき、エジプト王ファラオの王女が水浴びに川に来ていました。2:5a～8 「王女は、葦の茂みの間に籠を見つけたので、仕え女をやって取って来させた。開けてみると赤ん坊がおり、しかも男の子で、泣いていた。王女はふびんに思い、「これは、きっと、ヘブライ人の子です」と言った。そのとき、その子の姉がファラオの王女に申し出た。「この子に乳を飲ませるヘブライ人の乳母を呼んで参りましょうか。」「そうしておくれ」と、王女が頼んだので、娘は早速その子の母を連れて来た」。

そしてさらに王女が語ります。「この子を連れて行って、わたしに代わって乳を飲ませておやり。手当てはわたしが出しますから」と言ったので、母親はその子を引き取って乳を飲ませた。モーセは、神さまが守ってくださり、エジプトの王女の手によって育てられることとなりました。もう命が狙われる心配がありません。

モーセのお父さんもお母さんも、神さまを信じて、これからモーセがどうなるのか分かりませんでしたが、神さまに委ねて行動しました。そのため、モーセは守られ、エジプトの王女によって育てられることとなりました。

みんなも、これから苦しいときがあるかと思えます。大変だなと思うことがあるかと思えます。しかしいつでも神さまは一緒にいてくださいます。だからこそ、神さまを信じて、神さまに祈りつつ、委ねて頂きたいと思えます。

お祈りします。

神さま、モーセさんのお父さんもお母さんも、神さまを信じて行動しました。私たちも、いつでも一緒にいてくださる神さまを信じて、いつでも神さまにお祈りし、委ねて行動することができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

## 子どもメッセージ213 「モーセの召命」 出エジプト3章1節～22節 2023年2月19日

先週から出エジプト記を読み始めています。エジプトにいたイスラエルの人たちは、非常に多くなりました。そのためヤコブさん、ヨセフさんの頃と違い、エジプトにいたイスラエルの人たちは、奴隷とされて、毎日、重労働に苦しんでいました。

そうした中、エジプトの王であるファラオは、イスラエルに生まれた男の子は殺すように命令されていました。しかしモーセさんは、神さまに守られ、エジプトの王妃の子どもとして育てられていました。

モーセさんは、自分がイスラエル人であることを知り、重労働で苦しんでいた一人の男の人を助け、その結果、エジプト人を殺してしまいました。このことがバレてしまい、イスラエルの人たちは「自分たちも殺されるのでは」と恐れられたことから、モーセはミディアンという所に逃げていくこととなります。

しばらく経って、エジプトではイスラエルの民が奴隷として、まだ苦しんでいます。神さまはこのようなイスラエルの人たちの苦しみを覚えていてくださいます。そして、神さまはモーセさんと会ってくださいます。

モーセさんが、ホレブという山に来たとき、柴が燃えているのが見えました。不思議に思ったモーセさんが柴の方に近づいていくと、炎の中に神さまがおられ、神さまはモーセさんに、4「モーセ、モーセ」と呼びかけます。そして5「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」6「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」と語られます。

モーセは神を見ることを恐れて顔を覆います。この時神さまは苦しんでいるイスラエルを助けるとお語りくださり、モーセさんに10「今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ」と語られます。

モーセさんは、自分がイスラエルを助ける働きをすることに疑問を持ちます。そして自分にそのような働きができるのだろうかとも思います。このとき改めて神さまはモーセに語ります。14「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われた。

変な日本語ですね。神さまは、いつでも生きておられるということです。つまり、天地創造のとき、神さまは生きて働いておられました。そしてアブラハムの時代にも、そしてモーセの時代にも生きて働いておられます。この神さまがイエスさまを遣わし、そして今も、聖霊なる神さまをとおして今も私たちと一緒に居てくださいます。「わたしはある」という変な日本語ですが、神さまは、いつの時代になっても、生きて働いておられ、私たちに救ってくださる神さまであることを語っています。

モーセさんは、この神さまの言葉に励まされ、イスラエルの人たちの前に行き、エジプトからイスラエルを解放してもらうために働きを始めます。

お祈りします。神さまが、いつでも、そして今も生きて働いてくださるからこそ、私たちも神さまを信じて、神さまにお祈りすることができ、ありがとうございます。

モーセさんが神さまを信じて、神さまの働きを行ったように、私たちも神さまを信じて、神さまをいつでも神さまを礼拝することができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン



エジプトで奴隷となっていたイスラエルの人たちは、苦しみを神さまに訴えていました。そうした中、神さまはモーセさんを立て、イスラエルの指導者としてくださいました。モーセさんは、口下手だったから自分ではできないと思っていましたが、神さまは、お兄さんのアロンさんを連れてきて、一緒に、エジプト王ファラオの所に行くように語ります。

モーセさんは、ファラオに、イスラエルの人たちを解放して、地元であるカナンに帰らせて欲しいと願いますが、聞き入れてもらえません。

しかし神さまはモーセさんに奇跡を行う力をお与えくださいました。

最初は、アロンが持っていた杖を蛇に変えることでした。

- これから9つの奇跡を行います。
- |                      |                    |                 |
|----------------------|--------------------|-----------------|
| ①ナイル川の水を杖によって血に変えます。 | ②エジプト全土に蛙を引き起こします。 | ③ぶよを襲わせます。      |
| ④あぶを襲わせます。           | ⑤疫病のため家畜が死んでいきます。  | ⑥腫れ物が襲いかかります。   |
| ⑦雹が降ってきます。           | ⑧いなごの大群が襲ってきます     | ⑨3日間、暗闇が襲ってきます。 |

そして最後に神さまは、ファラオとエジプト人、そしてすべての家畜の初子（最初の子ども）をすべて殺すと語られます。このとき、家の玄関の門に小羊の血を塗ることにより、イスラエルの人たちは助かりますよと語られました。

そしてエジプトの初子が死んでいくとき、イスラエルの人たちは、奴隷から解放され、そしてエジプトを脱出することができました。

神さまは、昔アブラハムさんに、400年間、イスラエルは苦しむけれども、助けられることを約束してくださっていました。このときは、ヤコブの時代にイスラエルがエジプトに来てから430年目でした。神さまは、遠く昔に約束してくださっていたことを、忘れることなく、モーセさんを遣わすことにより、約束を果たしてくださいました。

このときから、毎年この時期に、イスラエルの人たちは、神さまが約束を忘れることなく、救ってくださることを忘れないために、過越しの祭りを行っています。そしてこの過越の祭りのときに、イエスさまは逮捕されて、十字架の死と、復活を行ってくださいました。

今に生きる私たちも、イスラエルの人たちが神さまによって救われたように、私たちもイエスさまの十字架によって救われたことを、この時期、つまり現在ではイースターで祭りをを行い、忘れないようにすることが求められています。

今年は、4月9日がイースターです。今からイエスさまの十字架を覚えつつ、毎日を送っていただきたいと思えます。

お祈りします。神さまは、神さまは400年以上の前の約束を忘れることなく、イスラエルの人たちを助け出してくださいました。そして私たちに対しても、2000年前のイエスさまの十字架の死と復活によって、私たちを救う約束を行ってくださいました。

今も私たちと一緒にいて働いてくださる神さまが、私たちを救い、天国での永遠の生命をお与えくださることに感謝します。だからこそ、私たちも神さまを信じて、喜びをもって神さまを礼拝し続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

## 子どもメッセージ215 「葦の海を渡る」 出エジプト14章 2023年3月5日

主なる神さまは、エジプトで奴隷となり苦しんでいたイスラエルの人たちを救い出してくださいました。そのため、モーセを先頭に、イスラエルの人たちは、喜んで約束の地に向かっての旅を始めます。

しかしこの時、イスラエルの民を奴隷から解放し、自由にしたエジプトの王ファラオは、非常に後悔して、もう一度、イスラエルの人たちを捕まえて奴隷にしようと思います。そのため、武器をもってイスラエルの人たちを追いかけていきます。

イスラエルの人たちは大人数ですので、ゆっくりです。そして目の前には、葦の海が広がっています。イスラエルの人たちは、迫ってくるファラオの軍隊におびえ、モーセに対して、「死ぬのはイヤだ、エジプトで奴隷の方が良い」とさえ、訴えます。

このときモーセさんは、神さまを信じて、人々に「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。……主があなたたちのために戦われる」と語ります。

このとき主なる神さまは、「イスラエルの人々に命じて出発させなさい。杖を高く上げ、手を海に向かって差し伸べて、海を二つに分けなさい。そうすれば、イスラエルの民は海の中の乾いた所を通ることができる。……」。イスラエルの人たちは助かりますよ、しかしエジプト人は、神さまによって裁かれ滅びますと、神さまはモーセさんに語られました。

モーセさんは神さまを信じ、そして、

22 イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行き、  
水は彼らの右と左に壁のようになった。

神さまは、イスラエルの人たちを助け、そして神さまを信じないエジプトの人たちを滅ぼしてくださいました。私たちは「自分では無理だ、できない」と思うことが出てきます。しかし、神さまにはできないことはありません。不思議な方法で解決してくださいます。だからこそ、どれだけ苦しい時でも、自分ではできないと思うようなことがおこっても、神さまを信じて、神さまにお祈りしていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、私たちは「自分では無理だ」と思うこともあります。でも神さまは私たちの祈りを聞いて、解決して下さるお方です。だからこそ、私たちがどのような時にも、神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちは、エジプトで奴隷とされて苦しんでいましたが、神さまがイスラエルの人たちの祈りを聞いてくださり、モーセさんによって助け出してくださいました。そしてイスラエルの人たちは、エジプトを脱出したとき、後ろから追ってきたエジプトの軍隊、そしてファラオ王からも守られ、葦の海を渡ることが許されました。

しかし、ここで問題は発生します。イスラエルの人たちは、非常に人数が多かったのです。旅を続けるには、あまりにも人が多く、食べるものがありません。そのため、イスラエルの人たちは、モーセに不平・不満を語り始めます。「エジプトの国で奴隷であったときの方が、おなかいっぱい食べることができた」と。

このときに主なる神さまは、モーセさんをとおしてイスラエルの人たちに語られます。

主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたたちのために、  
天からパンを降らせる。民は出て行って、毎日必要な分だけ集める」。

毎日、夕方うずらの肉、そして朝にパンをお与えくださいます。イスラエルの人たちがとって良いのは、その日一日分です。多く取った人も、少なくとった人も、その日一日分なのです、そして第六日、つまり今の金曜日には、第七日（安息日）の分と共に二日分をとるように言われました。

このとき、多く取って、翌日に残しておいたとしても、翌日には虫がついて食べられなくなってしまう。安息日の分だけは、二日目でも食べることができます。

イスラエルの人たちは、約束の地に入るのに40年かかるのですが、その間神さまは、このようにして、イスラエルの人たちを、ずっと養い続けてくださいました。

イスラエルの人たちが不平・不満をぶつけたように、みんなも、これが足りない、あれが足りないと思ってしまうと思います。しかしこうした時にこそ、神さまにお祈りしていただきたいと思います。神さまは、みんなの思いを知っておられます。そして必要なものを、ちゃんとお与えくださいます。神さまが、ちゃんと必要を満たしてくださることを、信じて、お祈りしていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、どうしても不平・不満を語ってしまいます。しかし、私たちが神さまにお祈りするとき、神さまはすべてを受け入れてくださり、必要なものをお与えくださいます。イスラエルの人たちが、マナというパンの養いを受け続けたように、私たちも神さまを信じて、神さまの養いに与り続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

エジプトにおいて奴隷であったイスラエルの人たちは、モーセによって救い出され、約束の地であるカナンに向かって歩いています。そうしたとき、シナイ山という所に来た時、神さまはモーセさん一人に、「山に登りなさい」と命令を出されました。

そしてモーセさんが一人、山に登ったとき、神さまはモーセさんに言葉を語られ、その言葉が記された石を2枚、お与えくださいました。このときに与えられたのが十戒でした。

十戒には、「～してはならない」という10の言葉が記されています。皆さんに注意していただきたいのは、「～してはならない」と語られたとき、戒め、行わなければ怒られることが記されていると思ってしまう。

しかし別の所で「10の言葉」(出エジプト34:28)と語られたのですね。

\*新共同訳は「十の戒め」と訳している。

確かに、記されていることは「～してはならない」という言葉ですが、ここが大切なのですが、最初に神さまがこのように語られたということです。

2 「わたしは主。あなたの神、あなたをエジプトの国、  
奴隷の家から導き出した神である」。

つまり神さまは、イスラエルの人たちに、「この言葉を守ったら救う」と語られたのではありません。あなたたちは、もう救われて、神さまの子どもとなっています。だから、神さまから離れて罪を犯さないようにするために、「この言葉を守りなさい」と語られました。

順番を間違わないことです。神さまは、神さまを信じる人を、イエスさまの十字架によってすでに救ってくださっています。十戒は、罪の誘惑から守られるために与えられたのであって、十戒を守らなければ救われないものではありません。

このことを間違えることなく、教会に来ているみんな、神さまを信じているみんなは、神さまによって既に救われています。神さまの恵みに感謝して、十戒の言葉にも、従っていただきたいと思えます。

お祈りします。

神さま、神さまはイスラエルの人たちを救い出してくださいましたように、私たちを救い、神さまの子どもとしてくださり、ありがとうございます。そして、私たちが神さまから離れることがなく、神さまの恵みを受け続けることができるように、10の言葉をお与えください、ありがとうございます。だからこそ、感謝して、喜んで、十戒の言葉を行っていくことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン

イースターをはさみましたので、出エジプト記の学びが少し飛びました。エジプトにおいて奴隷であったイスラエルの人たちは、モーセを指導者として立てられ、主なる神により、救い出されました。主なる神に、エジプトの王ファラオであっても、勝つことはできませんでした。

そして、エジプトを脱出したイスラエルの人たちは、約束の地であるカナンに向けて旅立ちました。このときに、神さまは、モーセさんに、シナイという山に登ってくるように命じられ、このとき与えられたのが十戒（十の言葉）でした。

モーセさんが、まだシナイ山にいたとき、主なる神さまはモーセさんに語ります。「直ちに山を下れ」と。そして「イスラエルの人たちは、雄牛の像をつくって拝んでいる」ことが、モーセさんに伝えられました。

イスラエルの人たちは、モーセさんが山に登ったまま、なかなか戻ってこないのので、自分たちの神として、モーセさんのお兄さんのアロンさんに、金の子牛の像を作らせたのです。神さまは十戒においても、「あなたはいかなる像も造ってはならない」と命じられていました。

主なる神さまは、イスラエルの人たちに怒りを表されます。モーセさんも、せっかく神さまから頂いた十戒の板を彼らに投げつけ、激しい怒りを露わにします。

それでもなお神さまはモーセさんに次のように語られました。

32:34 「しかし今、わたしがあなたに告げた所にこの民を導いて行きなさい。  
見よ、わたしの使いがあなたに先立って行く。」

罪を悔い改めない人たちには主の裁きもたらされるのは当然なのですが、罪を悔い改めて神さまに従う人には、神さまの約束の道に導くことを約束してくださることを約束してくださいました。

モーセさんがいなくなり、イスラエルの人たちは神さまもいなくなったと思いました。しかし神さまはいつでもイスラエルの人たちと一緒にいてくださり、見守っていてくださいました。私たちも、直接神さまを見ることができなため、神さまがいないかのように思ってしまうことがあるかもしれません。しかし神さまは、今でも、そしてみんながどこにいても、一緒にいてくださり、みんなを見守っていてくださいます。

だからこそ、どのようなときにも、神さまを信じて、そしてお祈りすることができるようにしていただきたいと思います。

お祈りします。 神さま、イスラエルの人たちが神さまがいなくと思ってしまう、罪を犯しました。私たちも、神さまをいなくと思ってしまうことがあります。それでも神さまはいつも私たちと一緒にいてくださることを教えられ、ありがとうございます。

だからこそ、どのような時にも、神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。 イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

出エジプト記を学んできました。エジプトで奴隷であったイスラエルの人たちは、神さまがお与えくださったリーダーであるモーセさんに導かれて、エジプトの奴隷から解放され、約束の地であるカナンに向かっていきます。

神さまはシナイ山でモーセさんに十戒を与え、イスラエルの人たちが、神さまの恵みに従って歩むことを期待していました。しかし、イスラエルの人たちは、モーセさんがいなくなると不安になり、金の子牛の像を作って、神さまを怒らせました。

そうした中、神さまはモーセさんに、幕屋の建設を命じます。イスラエルの人たちは、約束の地に向かって旅を続けています。実は、この後、またイスラエルの人たちが罪を犯すために、40年間、旅を続けなければなりません。

そうした中、イスラエルの人たちが、神さまを忘れず、神さまを礼拝し続けるために、神さまは幕屋の建設を命じられました。幕屋とは、テントであり、旅を続けながらも、持ち運びできるようになっています。

そして、幕屋の一番の中心は、至聖所と呼ばれる場所に置く契約の箱です。契約の箱には、モーセさんがシナイ山で頂いた十戒が収められました。神さまと一緒にいる、そして幕屋の前で神さまを礼拝することにより、イスラエルの人たちは、いつでも神さまと一緒にあることを覚えることができたのです。

神さまがそこにいることを象徴することが、ここで語られています

34 雲は臨在の幕屋を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。

旧約聖書の時代の間、幕屋、そしてその後に神殿ができてからは神殿に、神さまがおられることが示され、イスラエルの人たちは、そこで礼拝を守りました。

新約になり、イエスさまが来られてからは、イエスさまが十字架の死と死から甦ってくださることにより、もう幕屋や神殿、そしてそこにある契約の箱も必要なくなりました。私たちの救いが、イエスさまの十字架によって示されたからです。

そして、その後、聖霊が与えられました。ですから、私たちは、聖霊が宿ってくださる教会において神さまを礼拝し続けています。

聖霊の働きにより、私たちは、今も神さまと一緒にいることが確認できます。だからこそ、いまでは幕屋も神殿も必要ではなく、教会において神さまを礼拝しています。

お祈りします。

神さま、私たちに今、神さまを礼拝する場・神さまと出会える場である教会をお与えくださり、ありがとうございます。これからも神さまを礼拝し続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前により、お祈りします。 アーメン

エジプトにおいて奴隷であったイスラエルの人たちは、神さまによって救われ、約束の地であるカナンに向けて旅をしています。神さまは、モーセを通じて、十戒をお与えくださり（出エジプト記20章）、また、いつも神さまが一緒であることが分かるように、礼拝をするための幕屋をお与えくださいました（出エジプト記25-40章）。

また旅の途中、歩く所は、夜は火の柱、昼は雲の柱によって導いてくださいます（出エジプト記13:17-22）。また、毎日の食べ物としてマナとうずらの肉をお与えくださいます（出エジプト記16章）。

だからこそ、イスラエルの人たちは、旅を続けている最中、いつでも、神さまが導いてくださっていることを確認することができました。

そうした中、神さまは、約束の地であるカナンを偵察するように命じられます。イスラエルの12部族から一人ずつ、偵察に行くこととなりました。カナンの土地は、食物が成長するところであり、果物も大きな実を付けていました。彼らは、ぶどうやざくろ、いちじくをもって帰ります。

そして、イスラエルの人たちのいる所に帰って、報告します。

「そこはすばらしい土地です。しかし、そこにいる人たちは非常に強いです」と。

このとき、偵察に行った一人カレブは、「カナンに行くべきです」と語り、ヨシュアも賛成します。しかし、他の10人は、「恐ろしいから止めましょう」と語り、反対します。

神さまが一緒に来てくださることを知り、いくつものしるしが示されていたイスラエルの人たちです。

**民数記14:8** もし、我々が主の御心に適うなら、主は我々をあの土地に導き入れ、あの乳と蜜の流れる土地を与えてくださるであろう。

しかし、神さまが約束してくださった土地に行くことを拒否したのです。このとき神さまはモーセさんに語られます。「40年間、お前たちは罪を負わねばならない」と。そのため、イスラエルの人たちは、40年間、荒野での旅を続けることが強いられました。

神さまは、いつもイスラエルの人たちと一緒にいてくださったように、私たちと一緒にいてくださいます。だからこそ、みんなも、神さまを忘れることなく、教会にきて、神さまを礼拝し、神さまを信じていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、イスラエルの人たちは、いつも神さまがいることが示されていたにも関わらず、神さまの言葉を信じることなく、罪を犯してしまいました。神さまは、私たちは直接神さまを目にすることはありません。しかし、イエスさまの十字架によって、私たちはもう救われています。だからこそ、どのようなときにも、神さまを信じて、神さまと一緒にいることを信じて、どのような時にもお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちは、エジプトで奴隷でしたが、神さまがモーセさんをリーダーとして遣わしてくださった結果、奴隷から解放され、約束の地カナンに向かっていました。神さまは、イスラエルの人たちに必要な食べ物も飲み物も、履くものも、歩く道も、すべてお与えくださいましたが、イスラエルの人たちは、神さまが与えたとお語りくださったカナンに住んでいる人たちが大きく、恐ろしいと、脅えました。

そのため神さまは、イスラエルの人たちに、40年間、荒野をさまようように命じられ、40年という月日が経ちました。リーダーであったモーセさんも死に、新しいリーダーとしてヨシュアさんが立てられています。

ヨシュアさんを初めとするイスラエルの人たちの前には、ヨルダン川があります。川には水が満ちており、そのままでは渡ることができません。

しかし、ヨシュアさんは、神さまが共にいてくださることを信じていました。そして、神さまが神さまがお命じになったのだから、川を渡ることができると信じていました。そして、ヨシュアさんは、契約の箱を担いでいる祭司たちに命じます。

ヨシュア記3:6 ヨシュアが祭司たちに、「契約の箱を担ぎ、民の先に立って、川を渡れ」と命じると、彼らは契約の箱を担ぎ、民の先に立って進んだ。

すると、ヨルダン川の水は、右と左に壁をつくり、渡る道が与えられました。ちょうど、イスラエルの人たちが、エジプトを脱出するときに、葦の海を渡るときと同じようです。大切なことは、神さまが命じられたこと、神さまが約束してくださったことを、イスラエルの人たちが信じて、行動したということです。

神さまは、今も、私たちと一緒にいてくださいます。だからこそ、みんなも神さまを信じて、そしてお祈りするとき、神さまは祈りを適えてくださいます。だからこそ、疑うことなく、神さまを信じて、神さまにお委ねしていただきたいと思います。

神さまを信じてお祈りするとき、神さまは、みんなのお祈りを聞き、願いを適えてくださいます。

お祈りします。

神さま、ヨシュアさんは神さまを信じて、ヨルダン川を渡ることができました。

同じように、私たちも、神さまを信じて、お祈りすることができるようにしてください。そして、すべてを神さまにお委ね、神さまがお与えくださる答えに、感謝して、従うことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。



エジプトにおいて奴隷であったイスラエルの人たちは、モーセによって救い出されましたが、神さまの約束を疑ったりしたため、40年間、荒野をさまよい、エジプトを脱出したときに大人だった人たちは皆死んで、ヨシュアさんがリーダーとなった今、次の世代の人たちが、約束の地であるカナンに入ろうとしています。

このときイスラエルの人たちは、エリコという町に行かなければなりません。しかしエリコの町には町中に壁があり、イスラエルの人たちがそのまま入っていけば、殺されます。

そのとき神さまは、ヨシュアさんをとおしてイスラエルの人たちに語ります。「一日に一周、待ちの周りを回りなさい。それを六日間続けなさい。そして七日目は、町を七周回りなさい。そして祭司たちが角笛を吹きなさい。そうしたら、みんなが大声をあげなさい。そうすれば壁が崩れるから、待ちに入りなさい」。

このような命令です。町を回るだけで、そして大声を出すだけで、壁が崩れたり、敵をやっつけたりできるのだろうか、嘘だろう、とってしまうことです。

しかしイスラエルの人たちは、みんなヨシュアさんが語る神さまの言葉を信じて、行動しました。6日の間毎日、エリコの町を1周しました。そして7日間は、7週です。疲れたかも知れませんが、みんなが一緒になってあるきました。そして7週したとき、角笛がなります。

**角笛が鳴り渡ると、民は関の声をあげた。民が角笛の音を聞いて、一斉に関の声をあげると、城壁が崩れ落ち、民はそれぞれ、その場から町に突入し、この町を占領した。**

そうすると、イスラエルの人たちは、エリコの町を占領することができました。神さまを信じるとは、神さまの御言葉を信じて、従うことです。

神さまの御子であるイエスさまは、私たちが救うために人として、十字架にお架かりくださいました。そして死から復活して甦ってくださいました。疑わずに、信じるとき、神さまは、私たちが救いへと導いてくださいます。

(お祈りします)

神さま、イスラエルの人たちは、神さまの言葉を信じて、行動しました。だからこそ私たちも、聖書が語る神さまの言葉を信じることができるようになってください。そして、神さまが私たちといつも一緒にいてくださることを、喜んで生きることができるようになってください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちは、エジプトを脱出してから40年が経ち、ようやく神さまが約束の地としてお与えくださったカナンに入ることができました。

しかし、イスラエルの人たちは、約束の地カナンに入ると、安心してしまって、神さまを忘れてしまいます。そうすると元々この地に住んでいたカナンの人たちとの交わりを始めます。そうすると、主なる神さまを否定するバアルという偶像を信じるようになります。また、生活においても、悪いことを始めます。

こうしたとき、神さまは、外国人（ミディアン人）によって、イスラエルの人たちを恐れさせます。苦しくなったときに、初めてイスラエルの人たちは、主なる神を思い出し、神さまに助けを求めます。

このとき神さまは、士師という強い人をお立てくださり、イスラエルが外国人であるミディアン人を滅ぼし、安心して神さまを信じて生きることができるようになってくださいました。神さまは、全員で12名の士師をお立てくださいましたが、その一人にギデオンさんがいました。

神さまがギデオンさんを士師にお立てくださろうとしたとき、神さまはギデオンに語ります。6:14「あなたのその力をもって行くがよい。あなたはイスラエルを、ミディアン人の手から救い出すことができる。わたしがあなたを遣わすのではないか」と。

するとギデオンさんは「わたしの主よ、お願いします。しかし、どうすればイスラエルを救うことができますか」と神さまに尋ねます。

このときに神さまはお答えになります。

6:16 「わたしがあなたと共にいるから、あなたはミディアン人をあたかも一人の人を倒すように打ち倒すことができる。」

イスラエルの人たちは、すぐに神さまの恵みを忘れ、神さまから離れて行っていました。しかし神さまはどのようなときにも、イスラエルの人たち、そして私たちと一緒に居てくださいます。そして、私たちの祈りを聞き届けてくださいます。

だからこそ、みんなも、どんなときにも神さまと一緒にいてくださることを忘れないようにして頂きたいと思います。そして、いつでも、神さまにお祈りしてください。神さまは、いつでもみんなの祈り・願いを聞き届けてくださいます。

お祈りします。

神さま、神さまがいつでも私たちと一緒にいてくださり、ありがとうございます。私たちは神さまを忘れてしまうこともあるかもしれませんが、それでもなお、神さまは私たちと一緒に居てくださいます。だからこそ、私たちがいつでも神さまのことを忘れることなく、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちは、神さまの導きにより、約束の地カナンに入りましたが、モーセ・ヨシュアという神さまが遣わされたリーダーがいなくなると、神さまを忘れ、罪を繰り返しました。そうした中、イスラエルの人たちは神さまに助けを求めて祈りました。このときに、神さまによって立てられたのがギデオンさんでした。

そして神さまギデオンさんに、イスラエルを苦しめるミディアン人を滅ぼすように命じます。このときの命令が、今日、学ぶことです。敵を滅ぼすためには、より多くの方が良いかと思えます。しかし神さまは、最初に、

「あなたの率いる民は多すぎるので、ミディアン人をその手に渡すわけにはいかない。渡せば、イスラエルはわたしに向かって心がおごり、自分の手で救いを勝ち取ったと言うであろう。それゆえ今、民にこう呼びかけて聞かせよ。恐れおののいている者は皆帰り、ギレアドの山を去れ、と。」(7:2-3)

イスラエルの人たちは、22,000人が帰り、10,000人となりました。

さらに神さまは、主はギデオンに言われます。

「民はまだ多すぎる。彼らを連れて水辺に下れ。そこで、あなたのために彼らをえり分けることにする。」……

「犬のように舌で水をなめる者、すなわち膝をついてかがんで水を飲む者はすべて別にしなさい。」(7:4-5)

水を手ですくったのは、たった300人でした

このときに神さまはギデオンさんに語られます。

「手から水をすすった300人をもって、わたしはあなたたちを救い、ミディアン人をあなたの手に渡そう。他の民はそれぞれ自分の所に帰しなさい。」

ミディアン人は、何万人いたかわかりません。しかし神さまは、イスラエルの人たちに、たった300人で戦うように命じられました。自分の力で戦おうとすれば、恐ろしくてできません。しかし、イスラエルの人たちは、神さまが戦うように命じられました。神さまが先頭に立って戦ってくださり、勝利を遂げてくださいます。それを信じて、戦うことが求められたのですね。

私たちに求められていることも同じです。自分の力で何かを行おうとすれば、「自分には無理」と思うでしょう。しかし、神さまは一緒にいてくださいます。そして神さまが働いてくださいます。だからこそ、私たちは、神さまに祈り、神さまに委ねて行うことにより、大きなことであっても、神さまの導きにより、行うことができます。

だからこそ、どんなときにも神さまを信じて、神さまにお祈りして、行うことが求められています。

お祈りします。 神さま、どんなときにも、神さまと一緒にいてくださり、守ってくださることを信じるができるようにしてください。そして、自分で行おうとするのではなく、神さまに祈り、神さまに委ねることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちが約束の地カナンに入りました。みんなは喜びで一杯になったでしょうが、同時に、ずっと一緒にいて、導いてくださった神さまに感謝することなく、神さまを忘れてしまいました。そのため、イスラエルの人たちは、罪を犯し、他の神さまを求めるようなことを繰り返していました。

そのようなときに、神さまは、イスラエルの民が自分たちの罪に気付いて欲しいために、イスラエルの人たちを懲らしめました。それが外国人の手によって行われたのですね。

このとき、イスラエルの人たちは、ようやく神さまに助けを求め、神さまは士師と呼ばれる人たちをつかわされました。

全員で12名いますが、前回まではギデオンについて学びました。そして今日からはサムソンさんです。多くの士師は、大人になってから士師としての働きが与えられましたが、サムソンさんは、生まれる前から神さまによって約束されていました。お父さんになるマノアさんとお母さんになる人との間には、長い間、子どもがいませんでした。

しかし神さまの使いが、マノアさんの奥さんの所に来て、語ります。

「身籠もって男の子を産むである。今後、ぶどう酒や強い飲み物を飲まず、汚れた物も一切食べないように気をつけよ。

その子は胎内にいるときから、ナジル人として神にささげられているので、その子の頭にかみそりを当ててはならない。

彼は、ペリシテ人の手からイスラエルを解き放つ救いの先駆者となろう。」

(士師記13:3~5)

- 24 この女は男の子を産み、その名をサムソンと名付けた。  
子は成長し、主はその子を祝福された。

ナジル人とは、特別に神さまによって守られている人でした。そのために、サムソンには、特別に神さまから力が与えられ、ペリシテ人に勝利する力が与えられます。神さまを信じ、神さまがお語りになる言葉に従うとき、神さまは、サムソンさんに力をお与えくださいます。

私たちも、神さまを信じる時、神さまは、いつもみんなと一緒にいてくださいます。そして、神さまは、みんなのことをまもり、そして必要な力をお与えくださいます。だからこそ、いつも神さまと一緒にいることを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまは、どんなときにも一緒にいてくださり、イスラエルの人たちが苦しみ、助けを呼ぶと、神さまは助けてくださいます。だからこそ、私たちも、いつも神さまと一緒にいてくださることに感謝して、神さまにつづけてお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

約束の地カナンに入ったイスラエルの人たちは、罪を犯し、外国（ペリシテ）の人たちに苦しんでいました。このときに神さまは、イスラエルを助けるために士師として、サムソンさんをお送りくださいました。

サムソンさんは、生まれる前から神さまから約束されており、ナジル人として、特別な力が与えられていました。そのためサムソンさんは、お酒などは飲みません。髪の毛も切ったりすることはありません。

そうすることにより、サムソンさんは神さまから特別な力が与えられ、そしてイスラエルを苦しめるペリシテ人を倒していました。

しかし、サムソンさんは、よりによってデリラという女の人を好きになりました。デリラさんはペリシテ人がサムソンによって苦しめられていることを知っていました。そのため、デリラさんは、サムソンさんを捕まえる手段を考えたり、尋ねたりします。そして、「どうすれば、あなたの力がなくなるのか」と尋ねます。

サムソンさんは、そのことに素直に答えたりしません。はぐらかします。

しかし、彼女が何度も何度も尋ねてくるので、とうとうサムソンさんは彼女に告白してしまいます。「ナジル人であること、髪の毛を切れば、力が失われる」ことを告白してしまいました。

そうすると、ペリシテ人が来て、サムソンの頭をそりました。するとサムソンの力が抜け、そしてサムソンは捕まってしまいました。そしてサムソンさんの目をとってしまい、見えなくしました。

ペリシテ人たちは、3000人も集まり、パーティーを行い、捕まったサムソンさんを見物しています。このときに、サムソンさんは神さまに祈り求めました。

士師記16:28

「わたしの神なる主よ。わたしを思い起こしてください。

神よ、今一度だけわたしに力を与え、

ペリシテ人に対してわたしの二つの目の復讐を一気にさせてください。」

サムソンさんの髪の毛は長くなってきていましたので、神さまからの力が回復していました。そしてサムソンさんは建物ごと壊し、すべてのペリシテ人を滅ぼしてしまいました。

神さまは、無理だと思ふようなことでも、信じて、お祈りするとき、必要な力をお与えくださいます。だからこそ、苦しいときにこそ、神さまを信じ、神さまにお祈りをしてほしいと思います。

お祈りします。

神さま、サムソンさんは、神さまからの約束を破りましたが、改めて神さまを信じて、神さまにお祈りすることができました。だからこそ私たちも、いつでも、神さまを疑うことなく、神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

旧約聖書を学び続けてきていますが、これから王さまとして、サウル王、ダビデ王、ソロモン王が出てきますが、それに先だって、祭司であり預言者としての働きが与えられるサムエルについて、今日は学ぶこととします。

神さまの働きをする人は、神さまから不思議なことが示されることがあります。まだ少年であったサムエルさんは、自分の部屋で寝ていましたが、突然、神さまがサムエルに呼びかけられます。サムエルさんは驚いて、エリという先生のところに行きますが、エリさんは、サムエルさんと呼んでいませんでした。

こうしたことが三度繰り返されたのですね。このときもサムエルさんはエリさんのところに行きました。このときエリさんは、サムエルさんに言います。「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております』と言いなさい」と。サムエルさんは戻って寝ました。

すると、もう一度、主なる神さまがサムエルさんを「サムエルよ」と呼びかけられます。このとき、サムエルさんは、エリさんが語られたように答えます。

10 サムエルは答えた。「どうぞ、お話しください。僕は聞いております」。

11~13 主はサムエルに言われた。「見よ、わたしは、イスラエルに一つのことを行う。それを聞く者は皆、両耳が鳴るだろう。その日わたしは、エリの家に告げたことをすべて、初めから終わりまでエリに対して行う。わたしはエリに告げ知らせた。息子たちが神を汚す行為をしていると知っていながら、とがめなかった罪のために、エリの家をとこしえに裁く、と」。

主なる神さまがサムエルさんに語ったことは、エリさんに起こる怖いことでした。そのため、サムエルさんは、エリさんには黙っておこうと思いました。

しかし翌朝、16 エリさんはサムエルを呼んで語ります。「わが子、サムエルよ。」サムエルは答えた。「ここにいます。」

17-18 エリは言った。「お前に何が語られたのか。わたしに隠してはいけない。お前に語られた言葉を一つでも隠すなら、神が幾重にもお前を罰してくださるように。」サムエルは一部始終を話し、隠し立てをしなかった。エリは言った。「それを話されたのは主だ。主が御目にかなうとおりに行われるように。」

サムエルさんは、隠すことなく、エリさんに語りました。神さまは不思議な働きをされることもあります。しかし、真実を隠すことなく語り行うとき、神さまは、サムエルさんをイスラエルの人たちに信頼される立派な預言者・祭司としてくださいました。

みんなも、神さまの声に従うこと、そして誰に対しても正しいことを語ることが求められています。このとき、周りの人たちから信頼され、立派な働きを行うことができるようになります。

お祈りします。神さま、サムエルさんが神さまの御声に聞き従い、正しいことをエリさんにも語ることができたように、私たちもいつでも神さまに従うことができるようにしてください。イエスさまのお名前により、お祈りします。 アーメン

イスラエルは、主なる神さまが支配しておられ、必要なときに預言者サムエルを通して、神さまは語られました。しかし、イスラエルの人たちは、他の国と同じように、自分たちの王を立ててほしいと、サムエルに訴えます。

神さまは、王を立てられることによって、兵隊に行かなければならないこと、税金が取られる、王の奴隷となることなどを、イスラエルの人たちに語りましたが、それでもイスラエルの人たちは「自分たちの王が欲しい」と語るのです。神さまはイスラエルに王を立てることとしました。

このときに、神さまが目を留められたのが、ベニヤミン族のサウルという人でした。聖書にはこういう表現はあまり出てきませんが、サウルは背が高く、美男子でした。

ある日、サウルはお供の者と共に、姿を消したロバを探していました。見つからないので、帰ろうとしましたが、近くに神の人がいるということで、その人のところに行くこととしました。

このとき、神の人であるサムエルもまた、神さまから、サウロに会うが、「この男が私の民を支配する」との声を聞いていました。

そしてサムエルさんはサウルさんにかたります。9:20 「三日前に姿を消したろばのことは、一切、心にかける必要はありません。もう見つかっています。全イスラエルの期待は誰にかかっているとお思いですか。あなたにです。そして、あなたの父の全ての家にです。」

この後、10:1 サムエルは油の壺を取り、サウルの頭に油を注ぎ、彼に口づけして言った。10:1 「主があなたに油を注ぎ、ご自分の嗣業の民の指導者とされたのです」。

ここで大切なことは、普通の国だと、「自分が王になる」といったように、力の強い人が王になっていきますが、イスラエルでは、神さまが王をお立てくださるということです。そして神さまがお立てくださった王だからこそ、王さまが自分の思うことを行ってはいけません。神さまの言葉を聞いて、神さまが願っていることを行わなければなりません。

今、日本の国は、総理大臣が一番偉い人ですが、主なる神さまを信じていません。本当ならば総理大臣も神さまに従わなければなりません。そして私たちも、神さまを信じていない総理大臣でも、神さまを否定しないことに対しては、総理大臣に従うことが求められています。

私たちにとっては、いつでも、神さまが一番でなければ、なりません。

お祈りします。

神さま、イスラエルの人たちは王を求めましたが、私たちの王は、神さまだけです。だからこそ、私たちが、いつでも神さまを一番にして、神さまのお語りになる言葉に聞き従うことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン。

イスラエルの人たちが「王さまが欲しい」と頼んだ結果、神さまはサウル王をお立てくださいました。そうした中、イスラエルの人たちは、ペリシテ人と戦うこととなりました。ペリシテの軍隊には、ゴリアトという大きな人がいて、非常に強い人でした。身長は、6アンマ半、つまり3m近くありました。そして50kgもあるようなよろいを着て、投げやりなども持っていました。そしてゴリアテは語ります。「一騎打ちを行おう！」と。つまり、1対1の戦いです。

このとき、サウル王も、イスラエルの軍隊の人たちも、恐ろしくなりました。そうしたなか、エッサイという人に8人の息子がいました。その一番下の弟がダビデです。

ダビデは、サウル王の所に行き、このように語ります。<sup>32</sup> 「あの男のことで、だれも気を落としてはなりません。僕が行って、あのペリシテ人と戦いましょう。」

このときサウル王はダビデに答えます。<sup>33</sup> 「お前が出てあのペリシテ人と戦うことなどできはしまい。お前は少年だし、向こうは少年のときから戦士だ。」

しかしダビデは語ります。<sup>34-36</sup> 「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。そのときには、追いかけて打ちかかり、その口から羊を取り戻します。向かって来れば、たてがみをつかみ、打ち殺してしまいます。わたしは獅子も熊も倒してきたのですから、あの無割礼のペリシテ人もそれらの獣の一匹のようになしてみせましょう。彼は生ける神の戦列に挑戦したのですから。」

ダビデは更に言った。<sup>37</sup> 「獅子の手、熊の手からわたしを守ってくださった主は、あのペリシテ人の手からも、わたしを守ってくださるにちがいません。」

ここまで語り、サウル王は、ダビデが戦うことを許可します。但し、ダビデに武具を着せました。しかし、少年だったダビデには重たいものでした。歩くこともできません。

そのためダビデは、武具を脱いで、自分の杖を持ち、石を5つ手に持って、石投げひもを手にして、ゴリアトの所に行きました。ゴリアトはダビデをからかいます。

このときにダビデはゴリアトに語ります。<sup>47</sup> 「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ」。

そして、ダビデは石投げ紐と石一つでこのペリシテ人に勝ち、彼を撃ち殺しました。

私たちは「強い人、強い武器を持っている人が戦争に勝つ」と思っています。しかし、少年であっても、神さまを信じて、神さまが勝利を約束してくださるとき、戦いに勝利することができます。

だからこそ私たちは、何でも、自分の力で解決しよう、勝っていこうとする必要はありません。神さまを信じて、必要な方法、必要な力が与えられるように祈ることが大切です。神さまが守ってくだされば、神さまが解決する力、勝利する力をお与えくださいます。

お祈りします。神さま、少年であったダビデが、神さまを信じて、大男ゴリアトに勝つことができたように、私たちも神さまを信じて、神さまに委ねることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン



イスラエルの人々が王さまを欲しがったとき、主なる神さまは、イスラエルの人たちに王をお立てくださいました。イスラエルの人たちが、他の国々の人たちと異なっていたことは、主なる神さまが支配しておられ、王さまであっても、神さまの命令に従うことが求められました。

ダビデ王は、神さまの命令に従っていました。都であるエルサレムに王宮を建てた後、次に神のために神殿を建てようと思いつきます。神がおられるとされる神の箱が、天幕・つまり幕屋の中に置かれていたからです。

しかし神さまは、このことを喜ばれることはありませんでした。なぜならば、神さまは人間が定めた神殿という場所に留まることがないお方です。

そのため、神さまは、預言者ナタンをとおしてダビデ王に語ります。

神が、ダビデをイスラエルの民の指導者・王としてお立てくださいました。そして神さまと一緒にいてくださり、イスラエルの前から、敵を倒してくださり、イスラエルが約束の地であるカナン・エルサレムで安心して住むことが出来るようになりました。

そして、12節の言葉が続きます。

あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、

あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、

その王国を揺るぎないものとする。

ダビデの子どもであるソロモンが跡を継ぎ、その後、約束のメシアであるキリストにつながって行きます。この約束を、神さまは、ここでお語りくださいます。

また、ダビデが望んでいた神殿に関しても、ダビデの子、ソロモンが神の家である神殿を建てることを約束してくださいました。

神さまは、ダビデから救い主イエス・キリストが与えられることを約束してくださいました。そして、神さまの約束は、必ず成し遂げられます。

そして神さまは、私たちに対しても、神を信じる人は、イエス・キリストによってす区を与え、天国へと招き入れてくださることを約束してくださいました。

神さまを信じて、天国の希望に生きていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、ダビデさんに、子孫に続く恵みの契約をお与えくださったように、神さまを信じる私たちに、救いの約束をお与えくださり、ありがとうございます。

どうか、私たちが神さまを信じて、天国の希望に生きることができるようになってください。 イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまによって、イスラエルにダビデさんが王として立てられ、「その王国を揺るぎないものとする」と語られていました。そして、ダビデ王を継いだのが息子のソロモンさんでした。

まだ王になったばかりのソロモンさんでしたが、このソロモンさんに神さまが夢の中に現れます。そして神さまはソロモンさんに対して、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう」と言われます(5)。

このときソロモンさんは、ダビデさんが神さまを信じて行動したように、神さまを誉め称え、そして神さまの僕として、神に仕えていくことを告白します。

そしてこのように語ります。

「わたしは取るに足らない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません」(7)、  
「どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、  
この僕に聞き分ける心をお与えください」(9)。

ソロモンさんのこの言葉に、神さまは喜ばれます。そして神さまは語られます。

「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない。わたしはまた、あなたの求めなかったもの、富と栄光も与える。生涯にわたってあなたと肩を並べうる王は一人もいない。もしあなたが父ダビデの歩んだように、わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら、あなたに長寿をも恵もう」(11-14)。

神さまの前では、「わたしはこれができます」、「これが素晴らしいです」と誇ることはできません。だからこそソロモンさんは「取るに足りない者です」と語りました。ソロモンさんは、王としてふさわしく働くために必要なことを望みました。

神さまは、今、教会に来ているみんなも、ソロモンさんのように、神さまを信じることを望んでおられます。神さまは、神さまを信じて、神さまにお祈りする人に、ふさわしい賜物・能力をお与えくださいます。それは一人ひとり違うかと思えます。そして与えられた賜物・能力をつかって生きることを、神さまは喜んでくださいます。

だからこそ、自分で偉そうにするのではなく、神さまを信じて、神さまがお与えくださるものに感謝して、生きていってほしいと思えます。

お祈りします。

神さま、ソロモンさんが王として必要なものを、自分でつくろうとせず、神さまにお願いしたように、私たちも、これから生きていくために必要なものを、神さまがお与えくださることを信じて、神さまに祈り、神さまを信じて生きていくことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちに王さまが与えられました。ダビデ王に対して、神さまは、「その王国を揺るぎないものとする」と語られました。そして、ダビデ王を継いだのが息子のソロモンさんでした。

ソロモンさんが王になったばかりのとき、ソロモンさんは神さまを信じ、神さまの言うとおりに、イスラエルを治めることを約束しました。この言葉に、神さまは喜ばれました。そして神さまは語られます。

「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない。わたしはまた、あなたの求めなかったもの、富と栄光も与える。生涯にわたってあなたと肩を並べうる王は一人もいない。もしあなたが父ダビデの歩んだように、わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら、あなたに長寿をも恵もう」(3:11-14)。

しかし、時間が経つにつれて、ソロモンさんは、自分の思うとおりにし始めました。そしてソロモンさんは、女の人が好きでした。他の神を信じている外国の人たちも愛しました。そしてソロモンさんには、700人もの王妃と300人もの側室がいたと言われています。みんな、主なる神さまを信じることなく、偶像を拜んでいたため、ソロモン王も、次第に偶像を礼拝するようになりました。そして、主なる神さまに誓ったことを忘れていきます。

ですから聖書はこのように語ります。「ソロモンは主の目に悪とされることを行い、父ダビデのように主に従い通さなかった」(6)。

そしてさらに聖書は語ります。「ソロモンの心は迷い、イスラエルの神、主から離れたので、主は彼に対してお怒りになった。主は二度も彼に現れ、他の神々に従ってはならないと戒められたが、ソロモンは主の戒めを守らなかった」(9-10)。

そこで、主は仰せになった。「あなたがこのようにふるまい、わたしがあなたに授けた契約と掟を守らなかったゆえに、わたしはあなたから王国を裂いて取り上げ、あなたの家臣に渡す」(11)。

アブラハム以来、神の民とされていたイスラエルですが、ソロモン王が神さまから離れ、偶像を礼拝したため、神さまは、イスラエルを分裂させ、さらに外国の手によって滅ぼすことを宣言されました。ソロモン王の後、イスラエルの国は、北イスラエル王国と南ユダ王国に分裂しました。さらに後の王は、神さまを裏切り、偶像を礼拝します。その結果、北イスラエル王国は、アッシリアという国に滅ぼされました。そして南ユダ王国も、バビロンという国に滅ぼされ、ユダの人たちは捕囚の民として連れて行かれます。

神さまが選ばれたイスラエルの民であっても、神さまを裏切り続けることにより、滅ぼされます。しかしその中であって、神さまは、救い主であるイエスさまが、イスラエルから与えられる約束を守ってくださいます。

ソロモンさんのように神さまから離れることなく、神さまを信じ、神さまの御言葉である聖書の御言葉に聞き続けることができるようにしていただきたいと思います。

神さま、ソロモンさんは神さまを忘れてしまいましたが、私たちは十字架によって私たちを救ってくださったイエスさまを忘れることなく、神さまを信じて、神さまを礼拝し続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イスラエルの人たちが、「王さまが欲しい」と語ったため、神さまはイスラエルの人たちに王をお立てくださいました。王はイスラエルの人たちに平和をもたらすために立てられ、主なる神さまに従うことが求められていました。

しかし、ソロモンさんやその後の王たちは、神さまから離れました。別の神（偶像）を拝んだり、神さまが遣わされる預言者の言葉に耳を傾けませんでした。神さまは、イスラエルの王に対して、イスラエルの人たちに対して、そして私たちクリスチャンに対して語っておられます。「神を信じるのか、別の神を信じるのか」と。

今日のテキストでは、預言者であるエリヤさんが出てきます。イスラエルの地域は、ひどい飢饉があり、まったく雨が降らず、みんな困っていました。このとき、北イスラエルのアハブという王は、バアルという別の神を信じていました。そのためアハブ王は、主なる神の預言者であるエリヤさんに対して、「どちらの神が本当の神であるか勝負しよう」と語り、どちらの神が雨を降らすことができるか、勝負します。

このときアハブ王は、450人のバアルの預言者、400人のアシェラの預言者を集め、雨乞いをおこないます。彼らは自分の体に傷を付けたりしますが、雨が降るようなことはまったく起こりませんでした。

一方、主なる神を信じていたエリヤさんは、薪を並べ、雄牛を切り裂き、神さまに祈ります。

36 「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかになりますように」。

主なる神さまは、エリヤさんの祈りを聴いてくださり、火が降ってきて、献げ物である雄牛を焼き尽くしました。その後、雨が降ってきたのです。

私たちは、主なる神さまを見ることも、声を聴くこともできません。しかし、主なる神さまは、いつでも私たちと一緒にいてくださいます。そして見守っていて下さいます。だからこそ、私たちが神さまに祈りを捧げるとき、エリヤさんの声を聴いて下さったように、神さまは答えてくださいます。だからこそ、見えないからいないと思うのではなく、いつでも一緒にいてくださる神さまを信じて、聖書の言葉に聴き、お祈りしていただきたいと思えます。

お祈りします。

神さま、エリヤさんは多くのバアルの預言者を前にしても、一人神さまを信じて、神さまにお祈りすることができました。私たちのまわりにも、神さまを信じる人は少ないですが、私たちはいつでも神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、ダビデ王に、祝福をお与えくださり、それが続くことを約束してくださいました。しかし、ダビデ王の次のソロモン王は、多くの外国人の女性と結婚したり、別の神を拝んだりしたため、イスラエルの国は、北イスラエル王国と南ユダ王国の二つに分かれました。しかしそれぞれの国に立てられた王たちも、神さまの前に罪を繰り返したため、神さまはイスラエルを滅ぼすこととしました。

その結果、最初に北イスラエル王国はアッシリアという国に滅ぼされ、南ユダ王国もバビロンという国に滅ぼされました。しかし、ユダの人たちは滅ぼされ、皆殺されたかといえば、そうではありませんでした。一部の人たちはバビロンに連れて行かれました。奴隷みたいになったのです。

神さまは、イスラエルの人たちを忘れてしまったのではありません。実は、奴隷として連れて行かれた人たちが、70年後には、このバビロンを滅ぼしたペルシャによって救い出され、エルサレムに戻ってくることを、神さまは約束してくださったのです。そしてその後、救い主であるメシアが与えられることを約束してくださったのです。

### (歴代誌下36章)

23 天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。

この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。

あなたたちの中で主の民に属する者はだれでも、上って行くがよい。

神なる主がその者と共にいてくださるように。

つまり神さまは、ダビデ王に対して、ダビデの子孫として救い主であるメシアがお生まれになることを約束していただきましたが、イスラエルが滅ぼされることによっても、神さまはその約束を破ることなく、守っていただきました。

そして神さまは、バビロンから解放されエルサレムに帰ってきたイスラエルの民から、救い主であるイエス・キリストをお送りくださいました。

神さまは、いつでも私たちと一緒にいてくださり、働いてくださっています。そして、神さまが約束してくださったことは、必ず行われます。

イエスさまは、十字架の死から復活し、天国に上がるとき、再び来られ、神の国が完成することを約束していただきました。私たちは、今、このイエスさまの約束に生きています。毎日の生活で、いろんな苦しいこともあるかと思いますが、そうしたことも神さまは知っておられ、守ってくださいます。助けてくださいます。

だからこそ、神さまのことを忘れることなく、神さまを信じて、いただきたいと思います。

お祈りします。 神さま、イスラエルの人たちは、別の神を拝み続けたため、滅ぼされました。しかし、神さまは約束を守ってくださり、わずかな人たちが守られ、イエスさまをお与えくださり、私たちに救いをお与えくださいました。ありがとうございます。

だからこそ、私たちはいつでも神さまを信じ、神さまの御言葉に聴き、神さまに委ねてお祈りし続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって祈ります。アーメン

旧約聖書を読み進んできました。先週のお楽しみ会のときに、旧約聖書全体を確認しましたが、大切なことは、イスラエルの民は、繰り返し罪を犯しましたが、その都度、神さまが罪を赦し、救ってくださったということでした。

ダビデ王の後、ソロモン王も罪を犯しました。その結果、イスラエルは、北イスラエル王国と南ユダ王国に分かれることとなりました。その後の、王さまも罪を繰り返したため、神さまは北イスラエル王国をアッシリアという国によって滅ぼし、南ユダ王国もバビロンによって滅ぼされました。

しかし同時に、神さまは、アブラハムやダビデ王にお語り下さった約束を忘れることはありませんでした。それは、アブラハムの子孫であるイスラエルを祝福するということであり、ダビデ王から生まれる子どもから救い主であるメシアが与えられるということでした。

しかし、南ユダ王国もバビロンによって滅ぼされてしまいました。そしてエルサレムの都、そして神殿は破壊されてしまいました。こうした中、神さまは、ユダの民を、バビロンに連れて行き、そこで僅かですが、神さまの祝福に与る民を残されました。

神さまは、バビロンにいるイスラエルの人たちを守ってくださいました。そして、バビロンに連れてこられてから、70年後に解放し、エルサレムの都に帰ることができる、神殿を再建することができることを約束してくださいました。だから、預言者であるイザヤさんは、イスラエルの民に、次のように語ることが求められました。

**35:4 心おののく人々に言え。**

**「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。**

**敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる。」**

神さまは、約束を果たし、イスラエルが国に帰り、神殿を再建させてくださいました。私たちの信じている主なる神さまは、力ある神さまです。だからこそ、目に見ることはできませんが、私たちは、神さまを信じて欲しいと思います。

イエスさまが十字架の死から甦り、今は天のおられます。しかしイエスさまは、再びこの世に来られることを約束してくださいました。イエスさまは、みんなが分かるようにして、来て下さいます。このとき、神さまを信じている私たちは、神さまの御前に、喜びをもって行くことができます。ここではもう苦しいことはありません。悲しいこともありません。喜びをもって、神さまを賛美し、生きることが約束されています。

神さま、イスラエルが罪を繰り返したように、私たちも罪を繰り返してしまいます。しかし、神さまはイスラエルの民を祝福して下さり、イスラエルの中からメシアであるイエスさまがお生まれ下さいました。そして今に生きる私たちにも、イエスさまが再び来られ、神の国を完成させて下さることを約束して下さいました。神さまを信じて、喜んで神さまを礼拝し続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

約1年間にわたって旧約聖書を読み続けてきました。旧約聖書で大切なことを学んできました。つまり、神さまによって選ばれたイスラエルの民ですが、罪を繰り返しました。それでもなお、神さまはイスラエルの罪を赦し、救ってくださいました。それはなぜでしょう？ 神さまが私たち人間を愛しているからですが、同時に、最初の約束を忘れておられないからです。

つまり、最初の人アダムとエバは、神さまの約束を破り、罪を犯しました。このとき神さまは、救い主であるイエスさまを約束してくださいました。そして、

「彼はお前の頭を砕き

お前は彼のかかとを砕く。」(創3:16)

とイエスさまが蛇であるサタンを滅ぼすことを約束してくださいました。

この約束を、神さまは忘れることはありません。イスラエルの人たちが、神さまを忘れ、他の神々を拝んだり、罪を繰り返しますが、神さまは繰り返し、この約束を確認されました。そして、イスラエルの国は、アッシリア・バビロンという外国の人たちに滅ぼされ、イスラエルの人たちは、捕囚・奴隷としてバビロンに連れて行かれています。

そうした中、今日の御言葉を語られます。

主はわたしに油を注ぎ

主なる神の霊がわたしをとらえた。(イザヤ書61章1節)

「油を注ぐ」とは、神さまの働きを行う人であることを証明することです。そして神さまの霊と一緒にいてくださる、こうしたメシアを送る、これがイエスさまですよ、と、神さまから遣わされた預言者であるイザヤは、神さまの言葉を伝えます。

イスラエルの人たちは、バビロンに連れて来られ、イスラエルの都エルサレムは、廃墟、つまり戦争によって、めっちゃくちゃにされ、だれも住むことができません。

しかし神さまは、救い主であるイエスさまが来れば、新しく素晴らしい町がつくられることを約束してくださいます。これは、イエスさまの十字架によってサタンが滅ぼされ、神の国である天国が完成することです。

神さまは、最初の約束を忘れることなく、国が滅ぼされたイスラエルの人たちに改めて約束してくださいました。そして、この約束は、イエスさまによって行われます。

神さまは、みんなのことも忘れることはありません。だからこそ、神さまを信じ、神さまの約束に希望をもって歩んでほしいと思います。

お祈りします。 神さま、イスラエルの人たちは罪を繰り返しましたが、神さまはいつもイスラエルの人たちを赦し、そして最初の約束を忘れることをしませんでした。そして救い主であるイエスさまが来てくださり、私たちに救いをお与えくださいました。

だからこそ私たちも、神さまの約束を信じて、天国に希望をもって生きることができるようになってください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン

旧約聖書の学びも終わりに近づきました。イスラエルの人たちは、神さまから選びの民だと言われていたのですが、罪を繰り返しました。そのため、イスラエルの国は分裂し、さらにアッシリア・バビロンといった外国に滅ぼされました。

イスラエルが滅ぼされたのは、イスラエルが罪を繰り返したため、主の裁きとして行われました。

しかし、神さまは、イスラエルを完全に滅ぼされたのではありません。神さまは、イスラエルの中から、救い主であるイエスさまが来られることを約束してくださいました。これが、イスラエルが選ばれた、理由でした。

しかし、神さまの約束はこれだけではありません。神さまは、

31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

さらに神さまはこのように語られます。

31:32 この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。

かつて、イスラエルの人たちは、神さまからモーセをとおして、十戒を授かりました。神さまが、イスラエルの人たちを奴隷から救い出してくださいしたにもかかわらず、イスラエルの人たちは、その恵みを忘れて、罪を犯したのです。

31:33 しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。**わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。**

実は、神さまが語られる新しい契約とは、イエスさまが再臨され、天国が完成するときのことを語っています。このときには、戦争も、争いも、罪もなくなります。神さまを信じて救われた人たちだけが、神さまの恵みの中にいます。

神さまのこの契約・約束があるからこそ、私たちは、イエスさまを信じることにより、喜び・希望が与えられます。

神さまが約束されたことは、必ず果たされます。だからこそ、神さまを信じて、希望と喜びをもって歩んでいただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまは私たちを救い、天国に導いてくださるために、イエスさまをお送りくださいましたばかりか、天国のやくそくもお与えくださいました。だからこそ、私たちも神さまを信じて、喜びと希望をもって生きることができるようになってください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン



長い間、旧約聖書を学んできましたが、今日が最後です。そして、今日の聖書の箇所は、旧約聖書の最後に記されています。マラキ書といます。

神さまは、アブラハムを選び、アブラハムの子どもたちイスラエルを選んでくださいました。イスラエルは繰り返し罪を犯し、神さまから離れましたが、それでも神さまはイスラエルの罪を赦し、守ってくださいました。その理由は、メシアであるイエス・キリストを、アブラハムの子・ダビデの子としてお与えくださる約束を果たすためでした。

そして、神さまは、メシアであるイエス・キリストをお与えくださいました。イスラエルの罪、私たちの罪を代わりに償うために、キリストは十字架にお架かりくださり、私たちの罪を贖ってくださいました。

しかし、神さまの約束は、メシアであるイエスさまが来ることによって終わりではありません。神さまはおわりの時を、定めておられます。

つまり、十字架の御業を成し遂げられたイエスさまは、今、天において、主なる神様と一緒におられますが、もう一度来られます。このときには、神さまを信じている人は、みんな天国での祝福に入れられ、神さまを信じていない人たちは、罪のゆえに、神の裁きに遭います。このイエスさまがもう一度来られる再臨の時を、聖書は「主の日」と語ります。

そして、3:23

見よ、わたしは

大いなる恐るべき主の日は来る前に

預言者エリヤをあなたたちに遣わす。

と語ります。

イエスさまがお生まれになるときに、バプテスマのヨハネさんが生まれ、救い主であるイエスさまが来られることを語りました。このバプテスマのヨハネさんのことが、旧約聖書で語る預言者エリヤであると、イエスさまは言われました。

旧約聖書の時代には、イエスさまが来られ、十字架の死と復活により天に上げられ、もう一度、来られることは分かりませんでした。

しかし、預言者エリアであるバプテスマのヨハネさんが来ることにより、メシアであるイエスさまが来られることが示され、そのイエスさまが、再び来られることにより、すべての罪が裁かれ、天国が来ますよ、と神さまは、旧約のイスラエルの民にお語りくださいました。

私たちは、イエスさまが十字架の死と復活を経て、今、天国におられることを知っています。イエスさまがもう一度来られる「主の日」を待っています。イエスさまがもう一度来られる日、再臨の日を、希望をもって待ち続けたいと思います。

お祈りします。 イエスさま、神さまは旧約の人たちに、イエスさまによる救いと、天国の完成を約束してくださいました。だからこそ、私たちも、イエスさまの再臨と天国の完成を、希望をもって待ち続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン